

## プレゼンスとしての琉球産漆芸品について

園原 謙<sup>1)</sup>

The Presence of Ryukyu Lacquer-ware

Ken SONOHARA<sup>1)</sup>

### Abstract

Nowadays, we use “presence” as a geopolitical term. However, in this issue “presence” is used as a political and economical term of lacquer-wares made in the Kingdom of Ryukyu. Kingdom of Ryukyu’s presence was its identity to China and Japan. The Kingdom made various and precious lacquer-wares as a loyalty gift to the Emperor of China. It was also introduced to Edo shogun in 1609.

At first, Kingdom of Ryukyu was an independent country; later, controlled by the Satsuma tribe of Japan. On this issue, I am going to mention Ryukyu lacquer-wares’ presence in three views: the meaning of the gift, the route of the gift from Ryukyu(Okinawa), and the importance of the gift today. The meaning of these gifts is important to recognize. Taichu Shonin (1552-1639) was a priest from Oshu (now Fukushima Precfecture) that had planned to go to China to learn about Buddhism. However, due to international relations, Toyotomi Hideyoshi’s invasion of Korea made it difficult for Taichu to travel. Instead of going to China, Taichu went to Ryukyu, a Kingdom that possessed friendly relations and a trading position with China. During the three years Taichu lived in Ryukyu, he willingly submitted to King Sho Nei and spread the teachings of the Pure Land faith. In 1606, Taichu returned to Japan and established the Dannohorin-ji temple on the land to the east of the Sanjyo Bridge, Kyoto. In 1611, Ryukyu was invaded by Satsuma tribe, and King Sho Nei was taken as a captive of Japan. Together with Tokugawa Ieyasu and Hidetada, King Sho Nei of Ryukyu was proudly presented as a captive of Shimazu Iehisa. During this period, King Sho Nei gave many gifts, Ryukyu’s presence, to Taichu as a symbol of a friendship and respect remark.

Secondly, what did it mean for the 18th lacquer-ware made in Ryukyu to move to Kyoto by the way of Satsuma? The travel route of the gift to Kyoto is significant to Ryukyu history. The lacquer-ware was made before 1740, and was contained in a wooden box decorated with Japanese calligraphy. This shows where the presence originated from and who packaged it. This artifact, presence, was for the 400<sup>th</sup> anniversary of Kyoto Dannohorin-ji Temple’s foundation “Ryukyu and Priest Taichu”. The Tofuku-ji Temple’s collection in Kyoto was on the first display in Okinawa.

Lastly, in the 17th century, after the invasion of Satsuma, many gifts were given to surrounding countries. Not only lacquer-ware but materials and other gifts were given. Ryukyu/Okinawa lost a lot of its country’s valuables after World War II. Under the research of lacquer-ware that was spread throughout the world, we find that the lacquer-ware originated from Okinawa. This information is so important to the Okinawa people because of the stories behind the lacquer-ware gifts. Why were these gifts given? What countries received these gifts? Why do these gifts still exist? The “presence” from

1) 沖縄県立博物館・美術館 〒900-0006 沖縄県那覇市おもろまち3-1-1

Okinawa Prefectural Museum & Art Museum, 3-1-1, Omoromachi, Naha, Okinawa, 900-0006 Japan

the Kingdom of Ryukyu still remains. Okinawa's past has not been forgotten. Instead, it has been shared to different corners of the world.

## 1 はじめに

沖縄県立博物館・美術館では、2011年（平成23）が京都・檀王法林寺開創400周年であることを記念し、九州国立博物館（九博）と初の共同企画で「琉球と袋中上人展」<sup>(1)</sup>を開催した。そのことは琉球と檀王法林寺の歴史的な因縁に拠る。すなわち、この寺は、『琉球国由来記』に記される、浄土宗を琉球に初めて布教した袋中良定（上人）僧（1552-1639）が、帰国後の1611年（慶長16／尚寧23）に中興の祖として京都三条に開創した浄土宗の寺院である。

1609年（慶長14／尚寧21）、薩摩侵攻当時の琉球国王は第二尚氏第7代尚寧王（在位1589-1620）であった。同寺には尚寧王と袋中上人との親交の遺品が保管されている。国内で、古琉球期における琉球ゆかりの資料を多く所蔵するのが、京都三条大橋東詰の北側に位置する檀王法林寺（正式名称は朝陽山 梅檀王院 無上本林寺）である。

この展示会では、同寺に伝わる尚寧王から上人に贈られた宝物を中心に展示了。同寺には尚寧王が贈ったとされる資料が36点<sup>(2)</sup>あったとされるが、現在確認できる資料は、13件15点である。九博会場への移動は、京都から福岡間を美術専用車（美専車）によって陸送した。また九博での展示会終了後、福岡・沖縄間の資料運搬行程は、福岡発沖縄間の飛行機の機材が小さくなつたため、大型資料が運搬できず、福岡から鹿児島まで美専車による陸送。さらに、鹿児島・沖縄間を美専車をフェリーに乗せて移動した。資料返却にあたっては、沖縄・大阪（伊丹）間は空路、大阪・京都間は、陸送した。400年以上の歴史を有するこれら貴重な文化財の輸送にあたっては、その長い旅程に耐えることのできる、保存状態の良好な資料を選定した。残念ながらそのすべてを展示することはできなかつたが、9件11点を沖縄展では展示了。

本稿では、展示会開催という貴重な文化財を間近にみる機会を得たため、次の内容について紹介し、考えてみることとした。

一つ目は、これまで報告してきた檀王法林寺が所蔵する資料のうち尚寧王が贈呈したとされる来

歴をもつ宝物を踏まえ、琉球国王が贈呈した漆芸品のもつプレゼンスの意味について考えてみる。

二つ目に、この展示会開催準備の中で確認された箱書きをもつ琉球産漆芸品について紹介する<sup>(3)</sup>。今回沖縄で初めて展示公開された京都・東福寺所蔵の漆芸品で、その資料的価値、また日本における琉球産漆芸品の受容とその経路のひとつについて考える契機を与えるものである。

三つ目に、薩摩侵攻以降の17世紀初め以降の琉球からの献上品、進上品、贈呈品などいわゆる「琉球渡りの物」を代表する漆芸品に焦点をあて、今日、内外を問わず伝来し、現存する漆芸品のプレゼンスについて俯瞰する。ここで規定する「プレゼンス」<sup>(4)</sup>とは「存在あるいは存在感」という意味で用いたい。この言葉は、今日的には地政学的な意味として用いられるが、そのニュアンスを含ませつつ、政治外交的・経済的施策を反映した言葉として、琉球産漆芸品の存在価値を問いたいと思う。琉球王国の行政機関である首里王府は、明・清朝（中国）との朝貢（進貢）・冊封関係を基盤にしつつ、17世紀初めの薩摩侵攻以降、実質的な薩摩（日本）の支配のもとで、自らの歴史と文化を紡ぎ、創造していった。王府直轄の漆器等の製作所としての貝摺奉行所が存在し、王府の外交や経済政策に基づき、漆芸品製作はシステム化されて行われた。琉球におけるこれら器物は琉球国内においては、祭祀用具を収納する櫃や御供飯など神聖さを演出する国内仕様の器物、また冊封使や薩摩在番役人などの賓客のための接待用具など多様に用いられた。さらに国外においては、中国皇帝への朝貢品、島津家や江戸の徳川将軍家への進上品として、あるいは江戸上り途上でお世話になる諸大名などへの贈呈用の器物として用いられてきた。これら器物は琉球王国のプレゼンス（存在）を当時も、また今日においても残し続けている。内外の人々の趣向あるいは嗜好に基づく用途や意匠などの志向を反映する器物であったのか。これら交流する品物として琉球産漆芸品のプレゼンスについて考えてみたい。

## 2 琉球から贈られた漆芸品—来歴のある資料を中心に—

### 1) 琉球国王が贈った品々—その背景と檀王法林寺所蔵の漆芸品を中心に—

琉球に仏教が伝わったのは、英祖王（在位1260-99）の時代で補陀落僧と称する僧侶によって、極楽寺を建てたことに始まる。第一尚氏6代尚泰久（在位1454-60）は京都から禪僧の芥隱承琥に帰依し、仏教（臨濟宗）は国家鎮護の教えとして18もの寺院を建立した。禪僧は文書の起案や使者としても外交にも活躍した。第二尚第3代尚真王（在位1477-1526）は琉球一の巨刹・円覚寺を創建し、仏教はその最盛期を迎えた。16世紀前半には、真言僧日秀が来琉し、民衆救済活動を行っている。袋中上人以前の琉球の人々の信仰受容は、士族層の支配者らには禪宗（臨濟宗）、そして被支配者層の民衆には真言宗が盛んであったとされる。<sup>(5)</sup>

そのような中で、3年間滞在した浄土宗の一学僧に琉球国王が深く信頼を寄せ帰依し、桂林寺という浄土宗のための僧院を那覇松山に建立させたことは重大である。人を深く理解するのに、時間の長さは問題ではなく、その品性、仏法の教えや仏法僧としての博学の才能や知性、当時の国際情勢や国内情報など、様々な要因が考えられるが、いずれにしろ、袋中が傑出した人であったことによろう。今風にいえば、袋中上人の人間力に引き寄せられ、その魅力に囚われたのであろうか。一方で、袋中上人の魅力に囚われた国王を考える時、当時の琉球国が置かれた国際的状況を考える必要がある。さらに、琉球国内の寺院には、国王に仏法の教えや感化を与えるほどの秀逸の仏僧は不在であったことを示すのであろうか。何れにしろ、尚寧王が上人に全幅の信頼を寄せていたことが檀王法林寺に伝わる琉球関係の伝来品から伺い知ることができる。

上人の最後の直弟子の法林寺8世の東暉良閑が著した『飯岡西方寺開山記』（1666）によると、「神書ヲ望、此ノ時旅敵ナレバ一冊ノ書ナシ、故ニ頻ニ之ヲ辞ス、余レドモ、懇ニ請ル記ヲ加ヘ、佐助スルニ和ト仮名トヲ以テ綴、五巻ヲ作テ、琉球神道記ト名」として『琉球神道記』の著述の経緯が記される。また、同書の中では、琉球の國士黃冠の馬幸明に依頼されたとされる。<sup>(6)</sup>

袋中上人と尚寧王の出会いは、皮肉にも東アジアの国際関係がきわめて不良の中にあったことに起因する。上人が生きた時代は、まさに豊臣秀吉（1537-98）によって、東アジアが国際的に緊張関係の中にあった頃である。秀吉は大陸侵略の野望を抱き、朝鮮国王に入貢と明への案内を求め、それに応じなかつたことを理由に朝鮮へ出兵する文禄・慶長の役（韓国では「壬辰・丁酉の倭乱」と呼ばれる、1592-98）<sup>(7)</sup>が起きた。文禄の役の前年（天正11、尚寧3）には、朝鮮出兵令が発せられ、島津氏から7千人の兵糧10ヶ月分の調達や異国への情報漏れの禁止などの通達が琉球側に求められた。琉球側は文禄2年（1593）にはその要求の半分程度を整えたようだが、一方で宗主国・明へ情報提供を行う。

このように、朝貢国である中国と同じ臣下である朝鮮、そして威圧を示す日本との四画関係の中で琉球はジレンマに陥る。その決断を迫られた尚寧王の心労は想像に難くない。尚寧王は自らの心を癒し、戦乱の世の中を生きる道を指南するとともに、民衆教化を図ることのできる仏法力に期待したのではないか。また、宗主国へ入唐し、仏法を究めようとする学僧袋中上人に共感したのではないかと思われる。

尚寧王は袋中上人を人生の師として、深く思いを寄せ、その教えを受けた。第二尚氏歴代19人の琉球国王の中で、国王が個人的に品々を贈った行為を現存資料から確認できるのは稀有で、袋中上人に贈られた物はその代表的なものである。それら品々のプレゼントは、尚寧王の厚意や渴仰を証するものである。国王を虜とした袋中上人とはいかなる僧侶であり、何故琉球に渡ったかなどについて、当時の国際情勢を踏まえ、今一度確認しておきたい。

京都にある檀王法林寺は袋中上人によって開創されたが、元々同寺は法然上人の弟子で鎮西派の祖である良忠の弟子の一人、望西楼了惠上人が開いた悟真寺の由跡を襲って、当該地に建立されたと伝えられている。<sup>(8)</sup>

袋中上人は天文21年（1552）1月29日、陸奥国（明治元年に磐城国、現在の福島県）岩城郡（現在いわき市）磐前村西郷に生まれ、幼名は徳寿丸といった。父は賀茂空兵衛、母は八幡氏であった。七歳の春のある夜、袋中の目から光りを放ったという。それを

見た両親は驚き、「この小児は凡庸の輩にあらず、しかし、早く塵俗を脱して、精舎（仏門）にいれせしめには」といって、良定の叔父にあたる同国の能満寺住持存洞良要の許に送られた。永祿8年（1565）12月14日、14歳の時、叔父の天蓮社存洞上人について剃髪、沙弥戒を受け、袋中良定（たいちゅ りょうじょう）と称されたという。<sup>(9)</sup>

袋中上人は、幼少から仏道に精進して頭角を顯し、淨土宗名越派<sup>(10)</sup>成徳寺の13世住職を経て、慶長4年（1599）に磐城城内に、磐城平の大館城主岩城貞隆の帰依を受け、念佛道場としての菩提院袋中寺を開く。袋中上人は渡明のため、この地を離れる慶長7年（1602）まで留まり、布教したとされる。<sup>(11)</sup>

袋中上人が生きたこの時代は、日本国内では戦国の世から江戸時代への移行期に当たり、対外的には文祿・慶長の役がおこった激動の時代であった。袋中上人は、平安時代以来多くの僧侶が仏法を求めて、仏教先進国であった中国に渡ったように、入唐求法の志しを抱いて、明（中国）へ渡る可能性がある西海（九州）へ52歳（慶長8年 1603）で赴いた。当時の肥前国平戸（現長崎県平戸市）は、九州の西端に位置し、古代には遣唐使の寄港地であり、古から中国や朝鮮と深いつながりのある地である。室町時代には肥前松浦氏がアジア貿易の利をあげ、天文9年（1550）にはフランシスコ・ザビエルが鹿児島から平戸に至ると、これ以降この地は、日本における海外交易の一大拠点となった。徳川幕府が寛永12年（1635）に外国船の入港を長崎出島に制限するまでのおよそ90年間、ヨーロッパ諸国と親密な交渉が続いたとされる。また、この地以外にも、海外への出入港としては、薩摩の阿久根、筑前の博多なども比較的自由であったとされる。袋中上人は、『琉球神道記』の奥書で、「南蛮より平戸に帰朝する」と記しており、当時栄えた平戸に帰着したことを伺わせる。<sup>(12)</sup>

この時期は、日本、中国、朝鮮、琉球を取り巻く東シナ海一帯は、それぞれの国の船舶をはじめ、オランダ、ポルトガル、イスパニアなどのヨーロッパからの商船の往来も頻繁にあり、便船を見つけることは困難ではなかったはずであるが、『袋中上人絵詞伝』によると、「先ず、琉球にわたり給ひぬ、呂宋（ルソン）・南蛮の商船をたのむといえども、彼国々

の人は、日本をおそれて、かたく拒みてのせず」とあり、当時国交のなかつた日中韓三国の船を頼むことは不可能で、フィリピンのルソンや南蛮貿易船をたのみたくとも、日本人を恐れて乗船を難く拒絶されたというのである。このことは、袋中上人の最後の直弟子で東暉良閑の前述書にも、「此年入唐ノ望有テ、郷里ヲ去テ西海道ニ赴キ、商沽便船ヲ伺、漢土ノ著岸ヲ志ザスト雖ドモ、彼國東夷ヲ畏テ、堅ク旅船ヲ入レズ、故呂宋南蛮遠流ヲ凌ギ、風ニ依テ琉球ニ至ルニ」<sup>(13)</sup>とあり、当時、九州から琉球を経由してルソン・マニラあたりまでの交易ルートがあることは、15世紀に鋳造された「旧首里城正殿鐘（万国津梁の鐘）」に刻まれる銘文のとおり、琉球国の東アジアにおける外交的・経済的活躍を示すもので、鐘銘文の世界観と一致するものである。上人は仏学の探求と深化を求めて渡明を計画するが、当時の国際的な社会情勢や時勢は上人の渡航を許さなかつたのである。結局、明國の朝貢国である琉球へ渡ることで、渡明の機会を窺っていたと思われる。当時の琉球には、多くの日本人が居住地を形成し、商人たちにとって、琉球は中継基地として栄えていたとされる。

さて、尚寧王が袋中上人を我が師と仰ぐほどに帰依した形を具象するものに檀王法林寺が所蔵する一幅の絵がある。慶長16年（1611）3月に製作された琉球国王自ら、上人の椅子座像を描き、その上部に贊としての詞書が「拝題」として記される。上人の還暦を祝した一幅の絵画には、日本に服従を強いられ連行された琉球国王の心の叫びと、四面楚歌の中で唯一心を寄せることのできる上人への思いが詰まっているように読める。檀王法林寺のHPから藤堂恭俊博士の贊文訳を引用する。<sup>(14)</sup>

扶桑之師 顯露藏六 行藏縱横 拳眸境國 飄客万里 津梁琉國 自覺及他 念物念法 便福消過 三昧津行 伏瞻仰臨

世法何論 水島樹林 鳴声演法 即是師教 樹林生涼 即是師旨 净邦不遐 念中直至 苦具不縁 二六時來 大師到来

教弄不少 多少煙波 往々護師 為法孜々 余今苗像 護法奉僧 創闢桂林 請仰吾師 西達能言 如是之住 豈謂功德 敢弗誓德 瞻之仰之 大地荒蒙  
何也々々 二因一在 一又勿守 法眼円明 真正

安養 一身清淨 即是西方

辛亥春三月琉球國王尚寧圖併拝題贈袋中上人座下  
(印 「三惠至地」)

扶桑之師（袋中上人）亀の頭尾や足のように隠っていても、徳風つとに世を越えて自由自在に顯れます。万里を超えて琉球の港に着き、自覺覚他、佛と法とを念ずることを以ってされ、ついにその証を得られたので御座います。上人のその行動と法への通曉にはただ瞻仰申し上げる他ありません。水鳥や樹木、大自然のすべてが仏法を説いている、とは即ち自然には悟りがあるという師の教えを指し、また浄土の世界は遠からずという師の旨を指すのであります。そして、ただ一向に念すれば直ちに至ることができ、二六時中に大師（浄土）は來現すると説かれました。私は法を護り師を奉るために、師の像を描きました。師が桂林寺を御創りになられて以来我が師と仰いでおります。西方浄土への導きを扶助と申し上げ、功德と申し上げ、この徳を瞻仰することを仏に誓います。大地が荒れ果てても、二因一在を守り、知恵の眼を見開き正しき行いを守っていれば、身心は清淨であり、これは即ち西方浄土に通ずるものであります。

辛亥（慶長十六年）春三月 琉球國尚寧圖併拝題  
贈袋中上人座下

尚寧王が袋中上人に贈った資料で現在確認できる資料は表1のとおりである。袋中上人に贈られた尚寧王の品々は、いつ贈られたかという贈呈の時期については三つの考え方がある。一つ目は、慶長11年（1606）に上人が琉球から帰朝する際に贈られたものとするもの、二つ目に、薩摩侵攻以降、島津氏に駿府の徳川家康や江戸城の秀忠に謁見した尚寧王が慶長15年（1610）に帰国の途次に京都の上人の許を訪ね、再会を果たし旧交を温めた際とする考え。三つ目に、そのどちらの場合にもそれぞれあったとする考え方である。恐らく両機会とも尚寧王から何らかの品が与えられたとする考え方方が適當かもしれない。その数は36点と伝えられるが、現在確認できるのは13件15点である。これらのうち、いずれの機会に拝領したものかは不明であるとされる。<sup>(15)</sup>

さて、表1の贈られた品々は文化財の種別的にみると、絵画2件2点、漆芸品7件8点、金工品2件2点、染織1件1点、その他1件2点である。それ

らをみて、気づくことは、これらの品々は尚寧王直筆の記念品としての絵画、西湖図、中国製官服（飛龍図）を除いたもの以外は、上人の日常生活にとつて有用かつ実用的なものが多いことである。尚寧王は、琉球を想起されるような思い出の品々をさしあげたのではなく、上人の日常生活の中で活用されることを想定して品々を差し上げたことがわかる。

袋中上人が元和5年（1619）7月に弟子の良仙園王上人に書き残した『法林寺什物帖』に記されるものの中には、現存資料と一致するものがある。例えば「掛字 一 唐筆也」の「唐筆」とは、すなわち司馬温公の家訓螺鈿板と確認できるようなものもあるが、「唐櫃」のように、尚寧王が差し上げたかもしれないと思われるものがあるが、実物資料がないので、照合しようがない。

ここで注目したいのは、琉球国王からの袋中上人への贈呈品における漆芸品の占めるプレゼントである。同寺の記録によると、尚寧王からの贈呈品で現在確認できる15点の資料のうち漆器関係資料では8点ある。限られた資料の中での漆芸品の割合を論じることは多少無理があるが、漆芸品の質（棚や掛板、卓など比較的大物が多い）において確固たるプレゼントを感じることはできる。また、現存する資料の中では由緒来歴が確認できる点においても、確かな存在感を提示する貴重な資料である。

表2は、別表として「国内外に現存する琉球産漆芸品目録」を作成したものである。県内外の博物館や美術館の展覧会に出品されたもの、漆器コレクション等の目録等に記載されたものをまとめてみた。この目録は、戦争の時代と云われる20世紀の戦禍を免れた貴重な文化財の存在を語る。これら資料の中で、銘記や来歴が判明している資料は意外と少ないことがわかる。現存する琉球王国時代の漆芸品のうち、檀王法林寺所蔵資料は、琉球産とされる資料に關しては、製作時代を確定することができる基準作として位置づけられ、琉球漆芸品の技術史や製作状況、受容する側の嗜好性を知る上で貴重である。

## 2) 東福寺が所蔵する沖縄展示会初出の漆芸品

東福寺は、鎌倉時代に關白九条道家の帰依を受けた円爾弁円（えんにべんえん）が開創した、建仁寺と並ぶ京都屈指の禅宗の名刹である。山号を慧日山

表1 尚寧王が贈った袋中上人への品（檀王法林寺所蔵）

No	種別	名称	員数	用途	法量	内容	備考
1	絵画	絹本着色 尚寧王筆・贊 袋中上人像	1	記念品	縦 107.4cm 横 44.7cm	尚寧王が慶長14年の島津侵攻により属国になり、翌年島津家久によって連行され、駿府の徳川家康や江戸城の秀忠に謁見し、2年の滞在の後に琉球に帰国する際の16年3月に薩摩から還暦の寿像を描いて贈ったもの。	京都府指定文化財
※ 2	絵画	西湖図	1	絵画	縦 123.8cm 横 178.4cm	箱書に「琉球中山俯之古圖 檀王法林寺什物」とあることから、從来この絵は、首里の宮古や那覇の港を描いた「琉球中山古圖」と思われてきたが、その景物は古來から中国を代表する景勝地で知られる中國せつ江省杭州市の西湖であり、主要な景物が細かく描き込まれている。	"
3	漆芸	黒漆塗樓閣人物棚	1	飾棚、書棚、食器棚	高さ 119.24cm 幅 149.3cm 奥行 45.1cm	大型の飾り棚で、中央で三段に別れ、象牙象嵌、蒔絵、朱漆などで装飾される。琉球伝来の飾棚と比較すると、大型で類例のない形式。右側飾り棚の觀音扉に貼り付けられたり象牙には中國人物や鳥などが表されているが、文様の間隔を細かく打ち抜く表現に特徴があり、同様な手法はペトナムの伝統工芸品に見いだされることから琉球製でなく、中国もしくは諸外国製の舶来品と考えられる。	"
4	"	朱漆塗垣松螺鈿卓	1	花置	高さ 39.1cm 天板縦 29.2cm 横 39.9cm	四脚の朱漆塗螺鈿卓で、天板の文様に車輪石、雲、松樹、草、土坡、垣根を表す。薄貝によって精緻な螺鈿を施し、各所に象牙などで装飾される。從来この作品は琉球製として考えられてきたが、作行に中國や朝鮮半島製螺鈿の要素が取り込まれているとの指摘もあることから舶来品の可能性もある。京都・宮津市の重要文化財・旧三上家住宅には黒漆地螺鈿の同趣のものがある。	"
※ 5	"	黒漆塗文字入螺鈿曲卓	1	椅子	高さ 118.4cm 幅 89.4cm 奥行 42.8cm	紫檀地に四脚式の曲ろくて、座板と底板を二段に渡し、背板には薄貝の螺鈿によって、16文字が隸書で二行書きにされる。その周囲に雲龍、唐草などが螺鈿で表される。	"
6	"	司馬温公家訓螺鈿板	1	掛板	縦 157.5cm 横 66.6cm	掛幅状装具の草形式にデザインされた長方形の板造りで黒漆塗。表装部に細かい花七宝に団花文を散らし、中線上下には牡丹唐草文、風袋を唐草文とする。本紙にあたる部分には、中国北宋の政治家・歴史家の司馬温公の家訓の54文字を螺鈿で表す。その家訓とは、子孫のために万巻の書を積んでも、子孫はそれを読まないかもしれないし、子孫のために大金を残しても、子孫はそれを守らないかもしれない。子孫をいつまでも榮えさせようと思えば、世の人々のために陰徳（ひそかにする善行）を積んでおくことが最も大切である、という意味である。	"
※ 7	"	彫木龍貼付香合	1	香合	高さ 5.6cm 径 10.6cm	円形印籠蓋造の香合。蓋底及び口縁玉緑付。表は黒漆塗で、蓋・底の縁及び口縁を朱漆塗の玉緑とし、内側はベンガラ塗。表面は地文を桟形線彫とし、蓋の表に龍文、身側面に牡丹文、蓋裏を竹とする。	"
※ 8	"	藍胎内朱漆鉢	1	鉢	高さ 11.4cm 径 17.2cm	藍胎漆器（表皮を剥ぎ取った籠（ひご）を籠目に編んで素地とした漆器）で、糸底付の竹網製で内部を朱漆塗で鉢形容器。口縁を竹心藤巻とし、外側に棕櫚（しゅうろ）を七宝繋ぎに編んで着せる。藍胎漆器は、東南アジアで多く生産された。	"
9	"	クバ団扇	2	団扇	縦 49.2cm 横 39.4cm	团扇の本体部にビロウ（方言名クバ）と呼ばれる植物の葉を用いて周辺部を藤でかかる。柄の部分竹製で藤巻として、密陀絵を描く。一つは桜閣人物、もうひとつは、騎馬人物らしき文様が描かれる。	"
10	その他	払子	2	法具	①長さ 49.3cm 幅 39.5cm ②長さ 44.3cm 幅 39.3cm	払子は、もともと蚊や蟻を追い払うもので、それが後に僧侶の煩惱や障害を払うために、あるいは威儀を整えるための法具となつた。竹製の柄に和紙を芯として、白い獸毛（馬の毛か）を螺鈿状に巻き付けて飾る。毛と柄の取り付け部は編みをする。もうひとつは、白黒二色の獸毛を編む。	"
11	金工	鼎形香炉	1	香炉	高さ 48.5cm 口径 19.0cm	銅製で胴と蓋、耳に赤と白と青色の七宝雲文が表される。上から黒漆を塗った珍しい香炉。唐獅子の紐付きなどからみて、唐物と考えられる。	"
12	金工	鶴蓮華文七宝面盆	1	面盆	高さ 6.0cm 径 31.6cm	銅製の器胎に有線七宝を施した面盆。七宝とは金属製の本体表面にガラス質の釉薬をのせて焼成したもので、法華経や無量寿経に説かれる金・銀・瑠璃・瑪瑙など浄土の七種の宝になぞつて七宝とよばれる。透明度の低い緑と白と青の釉薬を主体とした、いわゆる泥七宝で、表面に多数の気泡が認められる。全面に施される「の」の字形の地文様は蝸牛形や渦文とよばれ、中國製七宝でよく表現されることから、中國からの舶来のものと考えられる。	"
13	染織	波濤飛龍図前掛	1	服	縦 106.0cm 横 86.0cm	元々は、中國製の綾織の婦人官服と考えられる。四爪の飛龍が中央に大きく一匹、両脇、上部に数匹、裾部分には劍山に波濤、青海波が表れており、衣服断片を接いで仕立てられている。文化二年（1817）には黒主山へ寄贈され、祇園祭の黒主山の山の前掛として平成元年（1989）まで使用された。黒主山の寄附書状には、「夷鳴綾錦 一掛」と記載されていることから黒主山へ提供する前から掛物に仕立て直されていたと思われる。	重要有形民俗文化財
合 計		15					

資料の内容については、「京都・檀王法林寺開創400年記念『琉球と袋中上人展—エイサーの起源をたどる』」(図録)より要約

※非展示

(えにちさん)、臨済宗東福寺派の大本山として750年の法統を連綿と伝える一大本山で、室町時代には禪宗五山の一つに数えられて、360余ヶ寺を統括する信仰の中心となっている。

京都の禅寺、特に臨済宗寺院には独特の愛称（あだ名）が付けられているという。寺の特徴が「〇〇面（ずら）」と巧みに表されて妙といふ。相国寺の「声明面」、建仁寺の「学問面」、大徳寺の「茶面」、妙心寺の「算盤面」、そして東福寺は「伽藍面」<sup>(16)</sup>である。同寺の豪壮な建物群に由来する、的を射た秀逸のあだ名といわれる。

本山の東福寺とその塔頭（現在25ヶ寺）には、多くの文化財が残されている。文化財の種別で見てみると、建造物で国宝2件、重要文化財16件の合計16件がある。また、美術工芸品に関しては、国宝5件が本山東福寺にあり、重要文化財は本山東福寺が50件、塔頭に31件で合計86件もある。他にも数多くの未指定文化財が伝来しており、現在も調査が行われているという。<sup>(17)</sup>

#### ア) 箱書きが示すもの



図1 東福寺所蔵 琉球産漆器

東福寺には、今回本県では初めて公開される琉球産の漆芸品がある（図1）。それは、きわめて保存状況がよく、使用頻度が少なかったのではないかと推察される。この漆芸品とは、鮮やかな朱漆塗りや山水楼閣人物を箔絵で加飾した足付盆及び五段丸重である。また、特筆されることはある、収納箱にある。いわゆる、箱書きが存在するということである。上蓋と側板の2面の3カ所に墨書きが記されていることで、その資料的価値はさらに高まり、日本国内における琉球産漆芸品の移動あるいは流通の経路を確認

する上で貴重である。箱の各部位（①上蓋、②側板1、③側板2）の墨書きは次のように記される（図2、3参照）。<sup>(18)</sup>

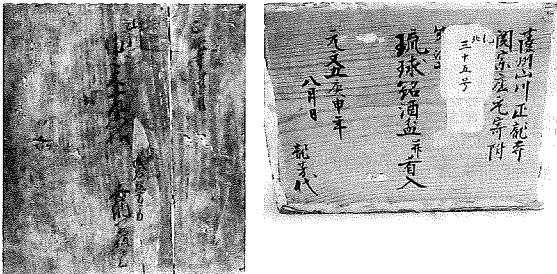


図2 箱書（上蓋）。図3 箱書（側板1）。

#### ①上蓋

正龍寺江届用

山川

識名親方与力

佐々木左衛門様 喜納里之子親雲上

#### ②側板1

薩州山川正龍寺

関宗座元寄付

朱塗

琉球銘酒盆并肴入

元文五庚申年

八月日

龍芳代

#### ③側板2

臥雲山

琉製

銘酒盆并肴入

即宗院

上蓋の墨書きが最も古いものと思われる。（琉球の）識名親方与力の喜納里之子親雲上から薩州山川の正龍寺への届け用として佐々木左衛門に宛てられたことがわかる。

佐々木左衛門と識名親方（喜納里之子親雲上）との関係は不明である。ここで今確認できることは、薩摩人と琉球の役人だけである。

当初、琉球産の品物なので、当然ながら起点としての琉球（首里）に注目していたが、琉球からの渡つてきたプロセスはさておき、その品物がすでに薩摩藩内にあることを前提として考えると、薩摩の琉球館の責任者である識名親方の配下である在番与力の

喜納里之子親雲上と理解した方がいいのではないかと考えた。しかしながら文献上では1740年以前に、琉球館の責任者としての識名親方が出てこないことがわかった。また、山川の佐々木の存在については、「京都寺社案内」のホームページの即宗院に関する情報に「山川代官」<sup>(19)</sup>と記されるが、当時の歴代地頭職をまとめた『鹿児島県史料 旧記雜錄拾遺諸氏系譜1』の指宿郡山川には「佐々木」姓は出てこない。<sup>(20)</sup>

1611年の琉球仕置以降、薩摩は琉球側に国質を求めた。最初の国質は摩文仁親方がなっている。また、寛永5年（1628 尚豊8）には那覇に大和在番仮屋が設置され、また薩摩藩内にも琉球仮屋が設置され、寛文7年（1667 尚質20）の池城親方以降、在番親方制度がはじまり、天明4年（1784 尚穆33）には、琉球館に改められたとされる。この役所は在番親方の居館であるとともに琉球からの砂糖そのほかの貨物の倉庫でもあり、またこれを交易する場所でもあった。薩摩との折衝、交易、倉庫、上国する琉球人の宿所という役目を果たした。役職、人数、職務は、次のとおりであった。①在番1名（親方があたり18ヶ月詰め）、②在番与力1名（諸士から選び、御進上・御進覽物、御付届をつかさどる）、③蔵役（琉藏役）1名（出物総、諸上納物など金穀の出納、琉球内諸座諸蔵の用品買下り）、④書役1名（評定所筆者からなる。諸方との問い合わせ、御物の訴訟、琉薩往復文書、館中のすべての御用弁。⑤重書役1名（物奉行筆者からなる。御藏方御物取締御払物、御用物出納、御普請御修補などの検見）をはじめ大和蔵役、大和書役、手伝いなど25、6人の構成であった。<sup>(21)</sup>

国質に端を発した琉球館の設置は、鶴丸城の北側、山川港の近くにあり、進攻後1世紀と四半世紀を経て、いわゆる首里王府出張所としての政治・通商の拠点として機能していた。琉球館は山川の正龍寺と同じ地域にあり、佐々木左衛門を介して品物は正龍寺に納品されたということになる。当時、薩摩の代表的貿易港であった山川港に出入りする外国船の外交文書の授受も正龍寺の住職があたったとされる。<sup>(22)</sup>

さて、佐々木を通して、正龍寺へ届けられた器物は、当然正龍寺に帰属する。それが正龍寺の注文品

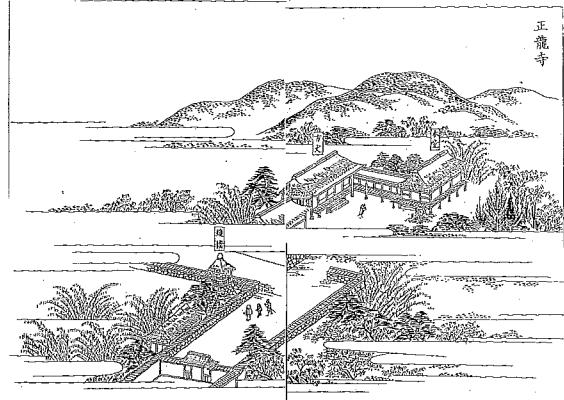


図4 正龍寺（『三國名勝圖會』より）。

であったものか。正龍寺自身が直接的に扱ってもいいのにも関わらず、なぜ佐々木左衛門を通す必要があったのか、いろいろと疑問が生じる。

箱書きの側板1についての関宗座元の「座元」とは、臨済宗による役職で首座をあらわすことから、一般的ことばに置き換えると、正龍寺住職の関宗という意味になる。つまり、正龍寺代表者の関宗が寄進したことを表す。送った相手が東福寺塔頭の即宗院。その住職が龍芳になる。龍芳代とは、龍芳が住職の代という意味で、即宗開山剛中より十伝の法孫桂巖龍芳（東福寺264世、1715-78）をさす<sup>(23)</sup>。薩摩山川の正龍寺座元関宗から即宗院住職の龍芳に元文5年（1740）に寄進されたことがわかる。側板2は、臨済宗の本山東福寺塔頭に入って以降に記されたものと推察される。臥雲山即宗院の器物備品として記されたと思われ、その器物は現在東福寺本山が所蔵する。

この収納箱には、二つの寺名が出てくる。一つは鹿児島山川の正龍寺、もうひとつは、京都東福寺・塔頭の即宗院である。正龍寺は明徳元年（1390）に虎林和尚によって建立された臨済宗の寺院で、現在の指宿郡山川町に位置する。当時、山川は琉球をはじめとする対外交易の中心港として栄えた場所であった。一方、即宗院も京都における薩摩ゆかりの寺院であった。同院は、嘉慶元年（1387）島津氏久が剛中玄柔（東福寺第54世住持）を開山として建立した島津家の菩提寺である。永祿12年（1569）焼失。慶長18年（1613）に再興した。現存する表門は再興時のもので、門の左右に石像の仁王像が安置される<sup>(24)</sup>。

また、この一具の漆芸品をめぐって、5人の人間

が登場する。琉球側では識名親方と同与力の喜納里之子親雲上、薩摩側では山川の佐々木左衛門、正龍寺座元の関宗。そして、最終的に器物を受理した、京都・即宗院住職の（桂巖）龍芳である。

この琉球産漆芸品は、当時の日本における「琉球渡りの物」の価値を表しているのではないかと思われる。その思潮は今日まで続いているといわれる。琉球渡りの物がいかに憧れの的であったかは、現在の鹿児島県内旧門閥の家に、江戸時代以来の東道盆など琉球漆器が大切に残されていることからも伺い知ることができる。鹿児島の地方門閥にとっては、家に琉球物があることが、ソーシャル・ステータスを示すことになったのであろうと指摘される。<sup>(25)</sup>

琉球産の交流品は、琉球から薩摩山川の正龍寺を経て、京都で島津家ゆかりの東福寺塔頭・即宗院の器物として用いられ、今日東福寺本山に伝わる。当時の日本社会における「琉球渡りの物」は袋中上人の時代より1世紀程度下っており、「唐物」の様式美を備えた存在としても解され、社会的ステータスとして大きいものがあったと思われる。

この資料は、当時「口大和」といわれた薩摩を通して、琉球渡りの物が贈呈物として当時の日本社会で珍重された一例を示すものである。朱塗りで、箔絵の漆芸器物の価値がどの程度の人々に認識されたのであろう。江戸上りの際の進上品リストをみると、螺鈿、沈金、堆錦技法による器物が主流である。ただ、これら技法を駆使した椀や盃などの古い器物は、表2のとおりも実在している。

これに漏れず、18回の琉球の江戸上りに際しても、献上、進上された品々には、例えば次のようなものがあった。中国製織物200点、琉球産織物1,634反、琉球漆器46点、泡盛酒（壺）60個。また別な目録では大小取り混せて、160壺余を1回の江戸上りで運んだという。これらの品々は国王から献上品で、使節は国王とは別に、将軍だけでなく、老中など幕府の要人をはじめ、江戸に至る道中の大名への贈り物などに準備された。その中で、特に琉球漆器の詳細を見ると次のとおりである。<sup>(26)</sup>

青貝大卓2脚、堆錦硯屏1対、青貝籠飯1対、沈金籠飯5対、沈金中央卓10脚。

堆錦料紙硯箱8通、青貝御鞍1口、沈金さすくい4つ、青貝香盆4枚、青貝中央卓2脚、青貝料紙硯

箱1通などである。

漆芸品における加飾技法に注目すると、螺鈿（青貝）6件、沈金3件、堆錦2件となっている。螺鈿の人気が高いことが伺える。これらの進上品としての漆芸品を製作するためには、どの程度の製作期間が必要であろうか。

貝摺奉行所文書の解析によると、曲物は小細工奉行所、指物は普請奉行所、金具は鍛冶奉行所、焼物は瓦奉行所、器物の塗方は貝摺奉行所とそれぞれの各役所の連携プレーをみることができる。また、最も時間と手間がかかる塗り作業を18の民間工房で請け負い、各工房で青貝中央卓など漆器1～6点の製作に実働2ヶ月余りで完成させている。ただ、後半の25日間は1日2本の蠟燭の灯りで夜なべをしての間に合わせの突貫作業であった。したがって、17人程度のスタッフを抱える王府貝摺奉行所のみならず、首里の民間工房や若狭の民間工房など、官民あげて漆芸品製作にとりかかったのである。<sup>(27)</sup>

総じて、漆器に関するいえることは、中国製織物を除いて、琉球産物の中で見る限り、織物品と比べると、その数は極端に少ない。製作に多くの時間を要することや、貝摺奉行所をはじめ首里など民間工房を含めも製作工房が限られていたことが要因として考えられる。それは稀少性と同時に高級性を演出し、琉球産漆芸品生産の限定性のプレゼンスを生むことになったと考えられる。

王府管轄の貝摺奉行所をはじめ、小細工奉行所、民間委託の漆器工房が総力をあげても、織物のように千単位の大量生産はできなかった。また、漆芸品は王国内では迎賓用、接遇用の什器としても不可欠なものとして扱われた。18世紀の親見世日記の記録の分析<sup>(28)</sup>では、限られた漆芸品を薩摩在番の役人接待用の器物として、親見世から用具をレンタルする姿がみえており、儉約的かつ合理的な王国の行政運営の姿を垣間見ることもできる。賓客用の漆芸品は、王府の大切な備品として一元的管理が行われていたのである。そこには、貴重な器物としての漆芸品のプレゼンスがみえてくる。今日的な言葉に言い換えると、賓客を迎えるために漆芸品としてのブランド性があったことになり、今日的な地産地消の実践をみることができる。また、賓客のランクによって、その器物が異なった。これらの使用実績は、県

外での使用を助長させる基盤を形成したと思われる。また、中国皇帝への朝貢品や江戸將軍への進上品などを通して、国外における琉球産漆芸品のブランドを確立した。そのことは、一方で経済的付加価値を生じさせることになったと思われる。

琉球王国の漆器は、王府の貝摺奉行所の管理下で、中国や日本への朝貢品、進上品、贈呈品、さらには交易品として、品質の高い漆芸品として王国を代表する産物として確固たる位置を占めることになった。さらに、王国内でも儀式や祝宴の器として、また扁額や王宮内の装飾にもきらびやかな漆芸の世界が展開された。<sup>(29)</sup>

### 3 国内外に所在する琉球産漆芸品

明治12年（1879）3月、明治新政府により、琉球処分が断行され、琉球王国の歴史は600年余で幕を閉じた。同年5月に上京した王国最後の国王尚泰は華族（侯爵）に叙され、東京麹町富士見町に約2千坪の土地と邸宅（東京尚家邸）が下賜された。置県当時の琉球の石高は12万石高であったが、30万石高の大名並の待遇で秩禄処分が行われた。<sup>(30)</sup>

東京の尚家には、玉冠や国王の唐衣裳をはじめ多くの美術工芸品、文書等が継承されてきた。1千点をこえる古文書の大半は、明治43年（1910）に尚泰の伝記編集主任を委嘱された東恩納寛惇（当時東京在）が尚泰関係資料として沖縄の尚家邸から取り寄せたものであった。また、処分前後の東京琉球藩邸に遺されたものもあった。とくに、玉冠や王装束類は第21代当主尚昌（1888-1923）の婚儀で飾られたとの伝聞がある。<sup>(31)</sup> また、昭和4年（1929）に読売新聞社が東京府美術館で開催した日本名寶展覧会では、玉冠、赤地の唐衣裳、千代金丸、石帶に加え蛇皮線（三線）などが展示紹介された。この展示会は、侯爵・公爵、伯爵、男爵・子爵など50名余の日本国内名家ご自慢の家宝を一堂に会してお披露目した當時としては画期的な展覧会であった。<sup>(32)</sup>

これら資料が沖縄から移動した時は、尚昌の長女の文子（のちに旧彦根藩の井伊家へ嫁ぐ）が大正6年（1917）生まれたため、少なくとも大正5年以前になるとされる。これら資料が大正12年（1917）の関東大震災や先の太平洋戦争における東京大空襲の被害から免れたこと、また沖縄戦の戦禍から逃れら

れたことは、奇跡といえるかもしれない。廃藩置県後その宝物の管理に尽力した尚家関係者の努力は、特筆されないといけない。一方で、残念ながら、沖縄戦で焼失または消失（流失）した膨大な琉球王国関係の資料があったことも事実である。旧中城御殿にあった沖縄尚家邸で保管していた貴重な文化財は、沖縄戦後行方不明になった。それら資料の一部が出現したのは、1953年琉米親善記念事業の一環としてペルリ来琉100周年記念事業の一環で、米国から返還された時であった。<sup>(33)</sup> それらは沖縄民政府立博物館に納められ、その敷地内には新たにペルリ記念館が建築された。

琉球漆芸史を考える上で、現存資料が多くあればあるほど、各時代における資料の特徴、主なる製作者である貝摺奉行所の製作方針、時代ごとの需要者（消費者）あるいは被贈呈者（受容者）の趣向あるいは嗜好による製作物の変遷、あるいは時代ごとの器物の差異など様々な研究に寄与することが期待される。天災や人災による多くの災いの中で、関係者の労苦によって死守された資料の中で、琉球産漆芸品やその技術史の体系化を図らなければならない。

これまでの県内外の博物館や美術館の展覧会に出品された資料、漆器コレクション等の目録等に記載されたものをまとめて作成したのが表2「国内外に現存する琉球産漆芸品目録」である。この目録に掲載される資料は、「戦争の時代」といわれた20世紀の戦禍を奇跡的に免れた貴重な文化財である。目録で示した資料の中で、銘記や来歴が判明する資料は意外と少ないことに気づく。これら由緒や来歴が知れる限られた資料は、製作時代を推定する上できわめて有用で、当該時代の基準作と位置づけられてきたものである。

新しく紹介された資料を追加し、製作器物の体系的な理解を促す上でも有用になる。この表はこれまでの図録等の刊行物で紹介された漆芸品を推定製作年代として記されているものをその製作の古い順序で並び替えてみた。時代的な特徴や嗜好を考える上で有用かもしれない。その分析や製作年代が不明なものについては今後の課題としたい。

この目録を作成するにあたっては、指定文化財を中心に文化財として保護される沖縄側の資料状況と国外を含む沖縄以外にある資料についても可能な限

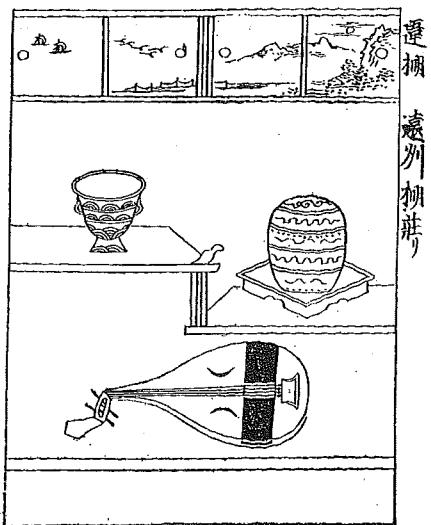


図5『古今茶道全書』の挿絵。

り、掲載に努めた。また、沖縄で美術工芸品の枠で文化財指定される三線についても工芸品としての指定に基づき取り込むことにした。

楽器には、徳川美術館所蔵の琉球楽器のように沈金や箔絵、漆絵、密陀絵のような加飾技法が施された献上品がある。一般的に三線をみると、黒塗のみの棹で装飾性は殆どないといつていい。頭部の糸倉内部に箔が張られ、弦を調整する3つの範（カラクイ）の先が輪花形に彫刻が施されたり、象牙象嵌が組み込まれたりした。また棹の尾にあたる猿尾の部位に象牙が継ぎ足されたりする。しかし何より、三線のもっとも大きな装飾性は、白と黒の蛇皮模様の胴（方言名でチーガという。）部分にある。

元禄6年（1693）に刊行された『古今茶道全書』には、小堀遠州（1579-1647）の違い飾り棚に琵琶を飾った図（図5参照）がある。そこには「一、琵琶に撥を添置時も有、撥を置合るには袋に不入、琴莊（かざ）る時に爪は不添也。琉球三味線を莊る事あり。撥不莊」とされ<sup>(34)</sup>三線の存在は最初の江戸上りから約1世紀を経て、大和の人々に周知されていることがわかる。それはまるで、今日の沖縄における三線箱を床飾りにする慣習の原点が見いだされる。

元禄期の日本では茶道家の遠州棚莊りでもみられるように茶室の棚飾りに食籠のような漆芸品の装飾性に加え、楽器を飾る粋な慣習があった。三線の美術工芸品としてプレゼンスをここで確認することが

できる。

この目録を様々な視点で構成することができる。推定の製作時代別、塗や加飾技法別、由緒来歴の有無、国内外の所在別など。これら限られた現存する琉球漆芸品から各時代の製作者の思いや受容者のニーズを読みとることができる。

『歴代寶案』や档案の記録から、18世紀後半から19世紀にかけて、皇帝の書をもらった御礼や先帝の弔いなど主に「特別な進貢」の時に、五爪龍の東道盆などの漆器や金製の鶴または亀の置物や染織品などが献上品として用いられていることは、琉球の外交上の駆け引き<sup>(35)</sup>を支えたプレゼンスとしての漆芸品の姿をみることができる。

#### 4 まとめに

琉球王国は、その近海で採れる夜光貝などの豊富な海洋資源を活用し、王府直営の貝摺奉行所を中心に質の高い琉球産漆芸品を製作した。これらの美術工芸品は献上品としての付加価値をもち、最高級の瑞雲や龍が描かれた黒漆螺鈿東道盆を筆頭とする中国皇帝への朝貢品をはじめ、日本の將軍や諸大名への献上品や進上品など贈呈用として活用された。また、国内に置いては、ノロなどの祭祀用具を収納する沈金丸櫃が用いられた。

本稿では、琉球産漆芸品が琉球王国の工芸品の中で特異なものとしての存在や、その価値や社会的な意味をプレゼンスという言葉を用いて論じてきた。

古琉球期の尚寧王と袋中上人の親交の証として、掛け板、棚、椅子、中央卓など実用品としての機能を備えた漆芸品を国王の親書ならぬ親物としての存在を確認した。また、東福寺が所蔵する琉球産漆芸品では、製作者の琉球を起点とする薩摩経由京都へのいわゆる物流の足跡を箱書きから証明することができた。しかしながら、山川の佐々木左衛門や識名親方あるいは喜納里之子親雲上との関係性、山川正龍寺の琉球産物を中継する役割などは今後の課題したい。最後に、「国内外に所在する琉球産漆芸品目録」については、当館の美術工芸（漆芸品）の担当として、世界中に所在する琉球産漆芸品を把握する必要性からリストづくりを試みた。また、平成3年から平成10年まで沖縄県教育委員会（教育庁文化課）で沖縄関連文化財の国外調査を担当し、米国、ヨー

ロッパの博物館・美術館における沖縄関連文化財を調査した者として、多くの学芸員と接する中で、外人が琉球産漆芸品を収集する理由を考えさせられた。その理由としては、漆黒の魅力、煌びやかで精緻な螺鈿細工の加飾、朱漆をベースに繊細な線で模様を描く沈金、模様を浮かび上がらせる立体感のある堆錦の妙をはじめ箔絵、密陀絵、漆絵など様々な加飾技法を使い分けた琉球産漆芸品の多様な世界があることだとわかった。小さな器に込められた、工人の美の世界には、人々に共感を与え、その虜にしてしまう、不思議な魅力があるのである。世界の学芸員は、琉球産漆芸品に東洋の美を感じ取った。

今回の目録には、戦禍を免れた戦前からの資料もある。県内の博物館では、戦後県内外から多くの方々のご厚意により、沖縄戦で失われた文化財を補うため、資料提供のご協力をいただいた。現在沖縄県内における漆芸品に関する国指定は11点、沖縄県指定文化財では37点、市町村指定に関しては4市町村71点ある。この目録には、そのすべてを掲載した。

また、この目録には、一般的に楽器として認識される三線を工芸品として、また琉球産漆芸品として位置づけて扱うこととした。漆黒の棹は文字通り漆芸品であることに異議はないはずである。その根拠としては、沖縄県教育委員会では文化庁（当時美術工芸課）の補助を得て、平成元年～4年まで4カ年計画で沖縄県内の戦前製作された古三線を対象に「県内所在琉球三味線（三線）調査」を実施し、その成果として9丁の三線を県指定文化財（工芸品）に指定した。実は沖縄における三線は復帰前の琉球政府時代からすでに指定されており、当時は昭和31年に特別重要文化財として3丁、昭和33年までに合計で11丁の三線が美術工芸品として指定されていた。したがって、復帰後のものを含めると、合計20丁の三線が文化財として存在する。ここに三線を漆芸品として位置づける理由がある。

今回は紙面の都合で一部しか入れることができなかつたが、フィンランド在住のクレスご夫妻の漆器コレクションは有名で、手元にある『Inro of Ryu kyus (琉球の印籠)』(2002) という本には、28,500点以上の漆器コレクションのデータを集積しているうち、印籠に関しては400点程度とされ、きわめて希少な漆芸品<sup>(36)</sup>であると指摘される。同書には厳選

の109点資料が琉球産の印籠として紹介されている。

沖縄戦で多くの文化財を失った。戦争の時代といわれた20世紀をくぐって、世界中の博物館・美術館で出会う琉球産漆芸品が存在することは、奇跡である。沖縄の大きな財産であり、琉球王国時代の先人からの大きなプレゼントであり、時代を超えた琉球・沖縄の漆芸品（工芸品）に関する美学のプレゼンスを示している。

### 謝辞

この展示会のために平成22年度から展示資料の選定や保存状況等の調査を実施した。そのためには、檀王法林寺の信ヶ原雅文住職をはじめ、寺宝物の調査・管理を行う株式会社伝統文化財研究所代表（京都造形大学大学准教授）の石川登志雄氏、九州国立博物館の藤田励夫氏に多大の協力をいただいた。その中で、石川氏が寺史編纂を担当する東福寺の所蔵資料にも言及され、同寺に箱書きのある琉球漆器が存在することの情報を得ることできた。今回の展示会では、袋中上人とは直接的関係はないが、上人の生きた時代から約100年を経た18世紀中頃の琉球漆器を調査し、展示することができた。ここに東福寺のご厚意に感謝申し上げる。また、東福寺学芸員の日種真子氏をはじめ、那覇市歴史博物館主任学芸員の外間政明氏、浦添市美術館学芸員の岡本亜紀氏、当館臨時職員の稻福政斎氏、鹿児島県立図書館には、東福寺所蔵資料の箱書の意味などについて多くのご教示をいただいた。また、英文翻訳は娘・季咲の友人のクリスティーン、ヒィモーラ氏に協力してもらった。関係各位に心より感謝申し上げる。

### 引用・参考文献（順不同）

- 石川登志雄. 2006. 「東福寺の文化財」『古寺巡礼 京都3 東福寺』(淡交社)  
石川登志雄. 2011. 「琉球と袋中上人」『檀王法林寺 袋中上人 琉球と京都の架け橋』(淡交社)  
石川登志雄. 2011. 「檀王法林寺の歴史」『檀王法林寺 袋中上人 琉球と京都の架け橋』(淡交社)  
石川登志雄. 2011. 「檀王法林寺の文化財」『檀王法林寺 袋中上人 琉球と京都の架け橋』(淡交社)  
宮城栄昌. 1982. 『琉球使者の江戸上り』南島文化叢書4 (第一書房)

- 横山學. 1987. 『琉球国使節渡来の研究』(吉川弘文館)
- 陳舜臣監修. 1992. 『南の王国 琉球』(日本放送出版協会)
- 沖縄県文化振興会公文書管理部史料編集室編. 2001. 『沖縄県史ビジュアル版8 近世 江戸上り—琉球使節の江戸参府—』(沖縄県教育委員会)
- 沖縄大百科事典刊行事務局編. 1983. 『沖縄大百科事典』(下巻) (沖縄タイムス社)
- 九州国立博物館編. 2006. 開館記念特別展「美のシリーズ」第3弾『うるまちゅら島琉球』(九州国立博物館)
- 加藤正俊編. 1987. 『剛中玄柔禅師語要』(恩文閣出版)
- 原口泉・他. 1999. 『鹿児島県の歴史』(山川出版社)
- 高向嘉昭. 1996. 『かごしま文庫31 薩摩の豪商たち』(春苑堂書店)
- 那覇市市民文化部歴史資料室. 2002. 『尚家継承美術工芸—琉球王家の美—図録』(那覇市)
- 沖縄県立芸術大学附属研究所編. 2004. 『鎌倉芳太郎資料集(ノート篇) 第1巻 美術・工芸』(沖縄県立芸術大学附属研究所)
- Else and Heinz Kreiner. 2002. 『Intro of the Ryukyus—Lacquered Medicine Containers』
- 沖縄県立博物館編. 1999. 『特別展三線のひろがりと可能性展(図録)』(沖縄県立博物館)

## 脚注

- 1 京都檀王法林寺開創400年記念「琉球と袋中上人展—エイサーの起源をたどる—」は九州国立博物館(九博)と沖縄県立博物館・美術館(沖県博)の初の共同企画展示として運営された。会期は九博が平成23年11月1日(火)~12月11日(日)、沖県博では、平成24年1月25日(水)~2月19日(日)の期間で開催された。展示資料は九博が琉球と袋中上人ゆかりの品と檀王法林寺の28点、同寺の名宝など10点の合計38件で構成。沖県博では、尚寧王が袋中上人に贈呈した資料9件11点を含む21点の資料と袋中上人に起源があるとされるエイサーの今日的写真をパネルなど50点の資料で構成した。
- 2 石川登志雄「琉球と袋中上人」『檀王法林寺 袋中上人 琉球と京都の架け橋』(2011淡交社) 73p.に

は、尚寧王贈呈の資料点数が36点と記されるが、沖縄県立芸術大学附属研究所編『鎌倉芳太郎資料集(ノート篇) 第1巻 美術・工芸』(沖縄県立芸術大学附属研究所 平成16年3月) 656p.に掲載される大正10年6月15日等の新聞記事切り抜きで那覇市松下町本願寺の菅深明(ペンネームが「耕南坊菅全愚」による「袋中上人と儀間真常と野国總管」(上中下)の「中」に、「京都三条の法林寺には今口袋中が、尚寧王から頂戴したという二十六品中の幾品かが残つてゐる。」とある。尚寧王から贈られた品の実数は不明であり、少なくとも大正時代には資料がすでに少なくなっていたことがわかる。

- 3 本展のために刊行した『琉球と袋中上人展—エイサーの起源をたどる—』(九州国立博物館 沖縄県立博物館・美術館編2011年11月) の中で(50-51p.p.と73-74p.p.) 九博学芸員の川畠憲子氏が資料解説を行っている。
- 4 プレゼンスという言葉は、今日特に軍隊・国家などが、ある地域へ駐留・進出して軍事的、経済的に影響力をもつ「存在」であることを示す脈絡で用いられている。
- 5 藤田励夫「琉球と袋中上人」『琉球と袋中上人展—エイサーの起源をたどる—』(九州国立博物館 沖縄県立博物館・美術館編2011年11月) 5 p.
- 6 石川登志雄「袋中上人と琉球」『檀王法林寺 袋中上人 琉球と京都の架け橋』(2011 淡交社) 71p.
- 7 文禄元年から慶長3年(1598 万暦26)にかけて行われた戦争で、豊臣秀吉によって主導された日本軍(遠征軍)と明及び李氏朝鮮との間で、朝鮮半島を戦場にして戦われた。日本と中国・朝鮮連合軍との間で展開したこの国際戦争は16世紀東アジア最大の戦争とされる。鄭杜熙、李ギヨンソン、金文子、小幡倫裕編『壬辰戦争—16世紀日・中・朝の国際戦争』明石書店(2008)
- 8 石川登志雄「檀王法林寺の文化財」前掲書102p.
- 9 石川登志雄「檀王法林寺の歴史」前掲書76p.
- 10 名越派は、法然の弟子で鎮西派(ちんせいは)の派祖となった弁長の弟子6人が鎌倉・京畿に布教し、6派(白旗派、名越派、藤田派、一条派、木幡派、三条派)に分裂した一派。石川登志雄「檀王法林寺の歴史」前掲書74p.
- 11 石川登志雄「檀王法林寺の歴史」前掲書77p.

- 12 石川登志雄「袋中上人と琉球」前掲書65p.
- 13 石川登志雄「袋中上人と琉球」前掲書66p.
- 14 石川登志雄「袋中上人と琉球」前掲書67-68p.p.
- 15 石川登志雄「檀王法林寺の文化財」前掲書105-106pp.
- 16 村井康彦「東福寺のDNA」『古寺巡礼京都 3 東福寺』102p. 淡交社 平成18年11月
- 17 石川登志雄「東福寺の文化財」前掲書133p.
- 18 川畠憲子「作品解説 山水楼閣人物箋絵足付盆および丸重一具」『京都・檀王法林寺開創400年記念琉球と袋中上人展—エイサーの起源をたどる—』73p.
- 19 京都風光「京都寺社案内・即宗院（東福寺）」のホームページ（2006）には、写真と合わせて次の説明がある。「朱漆塗琉球漆器、江戸時代、1740年、薩摩の山川正龍寺より当院に寄進された。もとは琉球の識名親方与力・喜納某より、薩摩山川代官・佐々木左衛門を経て、正龍寺にもたらされた。正龍寺は、室町時代、1390年、虎林により再興され、島津氏の庇護を受けた。薩南学派の祖・東福寺派の桂庵玄樹などの僧を輩出し、「薩摩の文教の府」といわれた。また、港に入る外国船の外交文書の授受に当たった。近代、神仏分離令（1868）後の廃仏毀釈により廃寺となつた。」
- 20 『鹿児島県史料 旧記雑録拾遺諸氏系譜 1』（鹿児島県歴史資料センター黎明館編集 昭和64年発行）の777-778p.pに「諸郷地頭系図」として「揖宿郡山川」の地頭職が慶長16年（1611）～嘉永5年（1852）まで29名の歴代地頭の職が記載されている。箱書きの元文5年（1740）当時の地頭は、西彦太郎（延享5—寛延3）となっている。
- 21 島尻勝太郎「琉球館」『沖縄大百科事典（下）』（沖縄タイムス 1983）860-861p.p.
- 22 「山川地区文化財 正龍寺宝珠付角柱石塔婆と旧正龍寺跡墓石群」指宿市考古博物館 HP
- 23 加藤正俊編『剛中玄柔禪師語要』（恩文閣出版 1987）107p. また、『東福寺誌』（1979）の974p.には、享保20年（1735）5月26日に龍芳が住職に就いたことが記される。
- 24 永井慶洲「東福寺の塔頭」『古寺巡礼京都 3 東福寺』131p.
- 25 原口泉「琉球を見る目・薩摩を見る目」陳舜臣監修『南の王国 琉球』（日本放送出版会 1992年6月）35-38p.p.
- 26 小野まさ子「解説 江戸上り・琉球使節の江戸参府」『沖縄県史ビジュアル版 近世② 江戸上り—琉球使節の江戸参府—』（沖縄県教育委員会 2001年3月）56p.
- 27 安里進「貝摺奉行所と近世琉球の漆器生産」『尚世家と琉球の美展（図録）』（MOA美術館 2001年）113p.
- 28 岡本亜紀「那霸土族の仕事と漆器二—親見世日記より—」『よのづち 浦添市文化部紀要第4号』（浦添市教育委員会 2008年3月）で、首里王府の役所である「親見世」（元々は貿易で得た品などを販売する店であったが、薩摩侵攻以降は鎖之側（さのそば）所管の那霸里主・物城方配下で、那霸の民政や在番奉行の世話、船の出入りの対応を行う役所）では、国内の漆器使用状況について、特別な儀式用の漆器が王府や御殿の備品として準備されており、必要に応じて貸し出しされた。親見世には、膳、椀などの食器だけでなく、灯台や行灯などの調度も備えられ、船荷改めや疱瘡予防、葬儀といった場面でも用いられたという。
- 29 那霸市市民文化部歴史資料室編「調度類」『尚家継承美術工芸—琉球王家の美—』図録（那霸市 2002年）25p.
- 30 外間政明「近代の尚家と尚家継承文化遺産」『尚家継承美術工芸—琉球王家の美—』図録（那霸市 2002年）85p.
- 31 外間政明「近代の尚家と尚家継承文化遺産」同掲書
- 32 拙稿「沖縄県指定有形文化財としての三線」『特別展 三線のひろがりと可能性』（沖縄県立博物館 1999年8月）26p.
- 33 拙稿「沖縄県の文化財保護史」『沖縄県立博物館紀要 第26号』（沖縄県立博物館 2000年）128-129pp.
- 34 池宮正治「三線の来た道」『特別展三線のひろがりと可能性展（図録）』沖縄県立博物館 1999年（平成11）57p.
- 35 岡本亜紀「中国に献上された琉球の東道盆」『よのづち 浦添市文化部紀要第2号』（浦添市教育委員会 2006年）41-41p.p.
- 36 『Intro of the Ryukyus — Lacquered Medicine Containers』 Else and Heinz Kreiner (2002) のあとがき 123p.

表2 国内外に現存する琉球産漆芸品目録

No	塗	加飾技法	名称	推定製作時代	員数	用途	法量(単位cm)	贈呈者	被贈呈者	所有者(所蔵先)	指定・来歴等	出典
1	朱塗	沈金	朱漆牡丹沈金足付盆	15世紀	1	盆	径21.5			英國・ピクトリア&アルバート工芸美術博物館		7
2	朱塗	沈金	朱漆巴紋鳳凰文沈金足付盆	15-16世紀	1	祭器	高さ10.6、径38.2			愛知県・徳川美術館		5
3	朱塗	沈金	朱漆鳳凰牡丹沈金八角盆	15-16世紀	1	盆	高さ3.6、縦23.1 横22.7			英國・ピクトリア&アルバート工芸美術博物館		7
4	潤塗	箔絵	潤塗樹下人物七宝織箔絵丸櫃	16世紀	1	櫃	高さ24.0、径25.4	首里王府	奄美大島・ 大和村戸内ノ口	鹿児島県・個人	奄美・大和村指定文化財、大和村戸内のノロの遺品。	2
5	朱塗	沈金	朱漆牡丹七宝織沈金丸櫃	16世紀	1	櫃	高さ18.4、径22.4	首里王府	奄美大島の ノロ	奄美大島 立利町教育委員会	ノロの遺品と思われる。	2
6	黒塗		黒漆船差拵(号 治金丸)	16世紀	1	刀剣拵	長さ73.6	仲宗根豊見親	宮古島	沖縄県那覇市・ 那覇市歴史博物館	国宝 (1552年)	3
7	黒塗	螺鈿	青貝螺鈿鞘(号 北谷菜切)	16世紀	1	刀剣拵	長さ46.5			沖縄県那覇市・ 那覇市歴史博物館	国宝	3
8	朱塗	沈金	朱漆宝相華文沈金天目台	16世紀	1	天目台	高さ10.6、径16.3			日本・個人蔵		5
9	黒塗	沈金	黒漆日輪鳳凰文沈金丸櫃 (タマザシ)	16世紀	1	祭具櫃	高さ17.8、径20.1	首里王府	ノロたち	沖縄県那覇市・ 海洋博覧会記念公園管理財団		5
10	朱塗	沈金	朱漆牡丹唐草沈金天目台	16世紀	1	天目台	高さ7.0、 羽根径18.0			英國・ 大英博物館日本部門	「天」入り	7
11	朱塗	沈金	朱漆樓閣人物葡萄栗鼠牡丹沈金膳	16世紀	3	膳	小膳(楼閣人物) 高さ5.5、縦横30.5 中膳(葡萄栗鼠) 高さ5.9、縦横33.2 大膳(抱牡丹) 高さ7.0、縦36.6、 横36.2			愛知県一宮市 妙興寺	伝 豊臣秀吉拝領品	16
12	朱塗	密陀絵・ 沈金	朱漆七宝織花鳥密陀絵沈金御供飯(朱 漆七宝織沈金花鳥漆絵御供飯)	16-17世紀	1	御供飯	高さ64.5、 径50.5			愛知県名古屋市・ 徳川美術館	国指定重要文化財(H-8) 島津家家臣市本孫兵衛尉家元の日記の慶長14年4月5日の条に記される、中山王府の宝庫より接收された宝物のひとつ。	2
13	朱塗	沈金	朱漆鳳凰雲点斜格子沈金椀	16-17世紀	1	椀	高さ7.35、 径12.7			愛知県名古屋市・ 徳川美術館	昭和53年購入	2
14	朱塗	沈金	朱漆花鳥七宝織密陀絵沈金足付盆	16-17世紀	1	盆	高さ9.0、 径19.5			愛知県名古屋市・ 徳川美術館	薩摩の琉球制圧時の王府宝庫からの接收物。	2
15		箔絵	白密陀樓閣山水人物箔絵料紙箱	16-17世紀	1	料紙箱	高さ6.8、縦36.7 横29.2			愛知県名古屋市・ 徳川美術館	「尾州家本 駿府御分物御道具帳」に「唐之ふんこ(文庫)但ふたわれ申候 豊」	2
16	黒塗	漆芸	黒漆塗樓閣人物糊	16-17世紀	1	飾棚、書棚、 食器棚	高さ119.4、幅149.3、 奥行45.1	尚寧王	袋中上人	京都府京都市・ 橿原法林寺	京都府指定文化財 中国製か?	4
17	朱塗	螺鈿	朱漆塗垣松螺鈿卓	16-17世紀	1	花瓶台	高さ39.1、板縦29.2 横39.9	尚寧王	袋中上人	京都府京都市・ 橿原法林寺(京都国立博物館寄託)	京都府指定文化財	4
18	黒塗	螺鈿	黒漆塗文字入螺鈿曲柾	16-17世紀	1	椅子	高さ118.4、幅89.4 奥行42.8	尚寧王	袋中上人	京都府京都市・ 橿原法林寺	京都府指定文化財	4
19	黒塗	螺鈿	司馬温公家訓螺鈿板	16-17世紀	1	掛板	縦157.5、横66.6	尚寧王	袋中上人	京都府京都市・ 橿原法林寺(京都国立博物館寄託)	京都府指定文化財	4
20	朱塗	堆朱	彫木龍貼付香合	16-17世紀	1	香合	高さ5.6、径10.6	尚寧王	袋中上人	京都府京都市・ 橿原法林寺	京都府指定文化財	4
21	朱塗	朱塗	藍胎内朱漆鉢	16-17世紀	1	鉢	高さ11.4、径17.2	尚寧王	袋中上人	京都府京都市・ 橿原法林寺	京都府指定文化財	4
22	透塗	密陀絵	クバ团扇	16-17世紀	2	团扇	縦49.2、横39.4	尚寧王	袋中上人	京都府京都市・ 橿原法林寺	京都府指定文化財	4
23	黒塗	螺鈿・ 箔絵	黒漆葡萄栗鼠螺鈿箔絵料紙箱	16-17世紀	1	料紙箱	高さ15、縦41.5 横31.2			沖縄県浦添市・ 浦添市美術館		5
24	黒塗	螺鈿	黒漆巴紋鳳凰文桶	16-17世紀	1	椀	高さ8.8、径11.1			日本・個人蔵		5
25	黒塗	沈金	黒漆牡丹沈金食籠	16-17世紀	1	食籠	高さ39.3、径34.1			沖縄県那覇市・ 海洋博覧会記念公園管理財団		5
26	朱塗	箔絵	朱漆鳥獸花草文箔絵足付盆	16-17世紀	1	盆	高さ19.0、径42.2			蒲校 明倫館	愛知県(徳川美術館)	5
27	黒塗	螺鈿	黒漆葡萄唐草螺鈿箱	16-17世紀	1	箱	高さ14.6、縦16.8 横22.2			米国・ メトロポリタン美術館	7-ビング・コレクション	7
28	黒塗	螺鈿	黒漆牡丹唐草螺鈿合子	16-17世紀	1	合子	径11.0			米国・ メトロポリタン美術館	7-ビング・コレクション	7
29	緑塗	沈金	綠漆孔雀牡丹沈金丸櫃	16-17世紀	1	丸櫃	高さ24.6、径18.8			英國・ 大英博物館日本部門		7
30	朱塗	螺鈿	朱漆牡丹尾鳥螺鈿卓	16-17世紀	1	卓	高さ31.0、縦31.8 横47.3			沖縄県浦添市・ 浦添市美術館	沖縄県指定文化財(H-2)	9
31	朱塗	螺鈿・ 箔絵・ 密陀絵	朱漆花鳥螺鈿箔絵密陀絵机	16-17世紀	1	机	高さ25.7、縦48.0 横111.6			沖縄県浦添市・ 浦添市美術館	沖縄県指定文化財(H-2)	9
32	緑塗	沈金	緑塗鳳凰雲点斜格子丸櫃	16-17世紀	1	櫃	高さ17.4、径19.7			沖縄県浦添市・ 浦添市美術館	浦添市指定文化財(H-2)	11
33	朱塗	沈金	朱塗花鳥沈金盤	16-17世紀	1	膳	高さ2.5、縦36.9 横36.8			沖縄県浦添市・ 浦添市美術館	浦添市指定文化財(H-2)	11
34	朱塗	沈金	朱塗山水人物沈金足付盆	16-17世紀	1	盆	高さ20.2、径44.0			沖縄県浦添市・ 浦添市美術館	浦添市指定文化財(H-2)	11
35	緑塗	沈金	綠漆牡丹唐草石垣沈金盤	16-17世紀	5	膳	高さ4.1、縦36.0 横36.4			沖縄県浦添市・ 浦添市美術館	浦添市指定文化財(H-2)	11
36	朱塗	螺鈿	朱塗寒山拾得螺鈿四方盆	16-17世紀	1	盆	高さ2.3、縦19.5 横19.5			沖縄県浦添市・ 浦添市美術館	浦添市指定文化財(H-2)	11

No	塗	加飾技法	名称	推定製作時代	員数	用途	法量(単位cm)	贈呈者	被贈呈者	所有者(所蔵先)	指定・来歴等	出典
37	朱塗	螺鈿	朱漆梅月螺鈿六角盆	16-17世紀	1	盆	高さ 6.1、径 40.7			沖縄県浦添市・浦添市美術館	浦添市指定文化財(H2)	11
38	黒塗	螺鈿・箔絵	黒漆葡萄栗鼠螺鈿箔絵料紙箱	16-17世紀	1	料紙箱	高さ 15.0、縦 41.5 横 31.2			沖縄県浦添市・浦添市美術館	浦添市指定文化財(H2)	11
39	洞鑿	箔絵・密陀絵	洞塗花鳥箔絵密陀絵丸形食籠	16-17世紀	1	食籠	高さ 28.7、径 27.9			沖縄県浦添市・浦添市美術館	浦添市指定文化財(H2)	11
40	黒塗	螺鈿・箔絵	黒漆葡萄栗鼠螺鈿箔絵箱	16-17世紀	1	箱	高さ 11.3、縦 12.5 横 12.5			沖縄県浦添市・浦添市美術館	浦添市指定文化財(H2)	11
41	黒塗	沈金	黒漆孔雀牡丹唐草沈金食籠	16-17世紀	1	食籠	高さ 36.7、径 33.6			沖縄県浦添市・浦添市美術館	浦添市指定文化財(H2)	11
42	緑塗	沈金	緑塗牡丹唐草沈金杯	16-17世紀	1	杯	径 10.0			米国ロサンゼルス・カリフォルニア州立美術館		14
43	黒塗	螺鈿	黒漆鳳凰牡丹螺鈿馬上盃	16-17世紀	1	馬上盃	高さ 7.6、径 8.2			沖縄県那覇市・沖縄県立博物館・美術館		15
44	朱塗	沈金	朱漆山水楼閣七宝繁沈金中箱	16-17世紀	1	箱				米国ワシントンD.C.スミソニアン・ナショナル・マuseum		17
45	緑塗	沈金	緑漆蜻蛉蝶牡丹七宝繁沈金椀	16-17世紀	1	椀	径 11.2			米国ロサンゼルス・カリフォルニア州立美術館		17
46	黒塗	宿絵・沈金	黒漆梅七宝繁絵沈金三足丸膳	17世紀	10	膳	高さ 9.8、 径 33.8-34.4	琉球使節 (中山王)	尾張徳川家	愛知県名古屋市・徳川美術館	寛文11年(1671)8月3日に江戸上屋敷に参上した琉球使節から献上された(尾張徳川家第二代光友の代の「御日記」に記載。5枚1箱で、2箱分)	2
47		白密陀・漆絵・箔絵	白密陀山水楼閣人物漆絵箔絵料紙箱及び硯箱	17世紀	1	料紙箱	高さ 10.8、縦 30.0 横 39.7			東京・宮内庁	徳川家康遺品の箱と同手法と思われる	2
48		白密陀・漆絵・箔絵	白密陀山水楼閣人物漆絵箔絵硯箱	17世紀	1	硯箱	高さ 5.5、縦 24.6 横 22.4			東京・宮内庁	徳川家康遺品の箱と同手法と思われる	2
49	朱塗	螺鈿	朱漆桐鳳凰文螺鈿琴	17世紀	1	琴	高さ 13.9、幅 24.8、長 さ 96.6			日本・個人蔵		5
50	黒塗	螺鈿	黒漆山水人物螺鈿内錦貼角盃	17世紀	1	盃	高さ 3.8、縦 5.3 横 5.3			ドイツ・ベルリン国立民族学博物館		7
51	黒塗	螺鈿・箔絵	黒漆葡萄栗鼠螺鈿箔絵料紙箱	17世紀	1	料紙箱	高さ 12.1、縦 36.1 横 45.0			米国・メトロポリタン美術館	アービング・コレクション	7
52	朱塗	宿絵・沈金	朱漆山水椿文箔絵沈金八角合子	17世紀	1	合子	高さ 2.5、径 10.1			米国・メトロポリタン美術館	アービング・コレクション	7
53	洞鑿	箔絵	洞塗山水人物箔絵足付盆	17世紀	1	盆	高さ 17.8、縦 25.7 横 41.2			米国・メトロポリタン美術館	アービング・コレクション	7
54	朱塗	密陀絵	朱漆椿烏密陀絵八角二段食籠	17世紀	1	食籠	高さ 28.0、径 28.5			英國・大英博物館日本部門		7
55	朱塗	密陀絵・沈金	朱漆牡丹雲鷲七宝繁密陀絵沈金長箱	17世紀	1	箱	高さ 8.0、縦 12.4 横 35.9			米国・メトロポリタン美術館	アービング・コレクション	7
56		密陀絵	白密陀花鳥丸盆	17世紀	1	盆	径 28.0			米国・メトロポリタン美術館	アービング・コレクション	7
57	朱塗	密陀絵・箔絵	朱漆山水人物密陀絵箔絵菱形皿	17世紀	5	皿	高さ 2.2、径 13.7			米国ワイ・ホノルル美術館		14
58	朱塗	沈金	朱漆花鳥沈金入角皿	17世紀	1	皿	高さ 1.9、縦 10.7 横 10.7			沖縄県浦添市・浦添市美術館		16
59	透漆	螺鈿	透塗樓閣樹下人物螺鈿卓	17世紀	1	卓	高さ 21.5、縦 38.0 横 59.0			沖縄県浦添市・浦添市美術館		16
60	朱塗	箔絵	朱漆山水楼閣人物箔絵箱	17世紀	1	箱	高さ 9.8、縦 33.5 横 19.5			愛知県幸田町本光寺		16
61	黒塗	螺鈿	黒漆梅文螺鈿硯箱	17世紀	1	硯箱	高さ 30.6、縦 23.8 横 21.4			米国ワシントンD.C.スミソニアン・ナショナル・マuseum		17
62	黒塗	螺鈿	黒漆騎馬人物吉祥文螺銀箱	17-18世紀	1	箱	高さ 11.1、縦 15.5 横 15.5			米国・メトロポリタン美術館	アービング・コレクション	7
63	黒塗	螺鈿	黒漆山水樓閣人物螺鈿箱	17-18世紀	1	箱	高さ 10.8、縦 41.9 横 27.1			米国・メトロポリタン美術館	アービング・コレクション	7
64	黒塗	螺鈿	黒漆螺鈿盆	17-18世紀	1	盆	径 14.6			英國・オックスフォード大学附属アッシュモア美術館		7
65	黒塗	螺鈿	黒漆山水螺鈿八角食籠	17-18世紀	1	食籠	高さ 60.4			英國・オックスフォード大学附属アッシュモア美術館		7
66		漆絵・箔絵	白密陀山水樓閣人物漆絵箔絵膳	17-18世紀	1	膳	縦 33.7、横 33.7			米国・メトロポリタン美術館	アービング・コレクション	7
67	黒塗	螺鈿	黒漆宝珠龍螺鈿東道盆	17-18世紀	1	東道盆	高さ 35.0、縦 56.0 横 35.0	琉球国王	中国皇帝	中国・北京故宮博物院	献上品「嘉慶九年(1804)十一月十四日收永安寺交螺?漆長方嵌盒一副內盛銀箋十五箇」の紙片有。	8
68	黒塗	螺鈿	黒漆宝珠龍燈山螺鈿東道盆	17-18世紀	1	東道盆	高さ 34.0、縦 55.8 横 34.9	琉球国王	中国皇帝	中国・北京故宮博物院		8
69	黒塗	螺鈿	黒漆宝珠龍燈山螺鈿東道盆	17-18世紀	1	東道盆	高さ 35.0、縦 56.0 横 35.0	琉球国王	中国皇帝	中国・北京故宮博物院	献上品	8
70	黒塗	螺鈿	黒漆葵紋菊螺鈿箱	17-18世紀	1	箱	高さ 11.3、縦 12.6 横 10.3			沖縄県浦添市・浦添市美術館	沖縄県指定文化財(H2)	9
71	黒塗	螺鈿	黒漆雲龍螺鈿大盆	17-18世紀	1	盆	高さ 9.3、径 85.3			沖縄県浦添市・浦添市美術館	沖縄県指定文化財(H2)	9
72	黒塗	螺鈿	黒漆雲龍鳳螺銀長文箱	17-18世紀	1	箱	高さ 6.8、縦 37.5 横 8.8			沖縄県浦添市・浦添市美術館	浦添市指定文化財(H2)	11
73	黒塗	螺鈿	黒漆菱七宝繁螺銀伽羅箱	17-18世紀	1	箱	高さ 10.0、縦 10.6 横 15.2			沖縄県浦添市・浦添市美術館	浦添市指定文化財(H2)	11
74	黒塗	螺鈿	黒漆麒麟葡萄栗螺鈿重番合	17-18世紀	1	香合	高さ 11.3、縦 10.3 横 10.3			沖縄県浦添市・浦添市美術館	浦添市指定文化財(H2)	11
75	黒塗	螺鈿	黒漆山水人物螺銀輪花盆	17-18世紀	1	盆	高さ 5.0、縦 37.2 横 57.7			沖縄県浦添市・浦添市美術館	浦添市指定文化財(H2)	11
76	黒塗	螺鈿	黒漆雪龍螺鈿盆	17-18世紀	1	盆	高さ 3.9、径 34.2			沖縄県浦添市・浦添市美術館	浦添市指定文化財(H2)	11

No	塗	加飾技法	名称	推定製作時代	員数	用途	法量(単位cm)	贈呈者	被贈呈者	所有者(所蔵先)	指定、来歴等	出典
77	黒塗	螺钿	黒漆騎馬人物螺钿箱	17-18世紀	1	箱	高さ15.2、縦40.5 横28.6			沖縄県浦添市・ 浦添市美術館	浦添市指定文化財(H2)	11
78	黒塗	螺钿	黒漆樓閣人物螺钿飾棚	17-18世紀	1	棚	高さ80.0、横76.0 奥行49.2			沖縄県浦添市・ 浦添市美術館	浦添市指定文化財(H2)	11
79	黒塗	螺钿	黒漆山水人物螺钿河古陀形煙草入	17-18世紀	1	煙草入	高さ7.5、径7.2			沖縄県浦添市・ 浦添市美術館	浦添市指定文化財(H2)	11
80	潤塗	螺钿・箔絵	潤塗葡萄鼠螺钿箔絵硯箱	17-18世紀	1	硯箱	高さ26.0、縦26.3 横21.7			沖縄県浦添市・ 浦添市美術館	浦添市指定文化財(H2)	11
81	黒塗	螺钿・箔絵	黒漆吉祥文螺钿箔絵箱	17-18世紀	1	箱	高さ21.6、縦22.7 横35.5			沖縄県浦添市・ 浦添市美術館	浦添市指定文化財(H2)	11
82	黒塗	螺钿・沈金	黒漆二十四孝唐草螺钿沈金八角食籠	17-18世紀	1	食籠	高さ28.7、径29.0			沖縄県浦添市・ 浦添市美術館	浦添市指定文化財(H2)	11
83	黒塗	箔絵	黒漆葡萄鼠箔絵八角食籠	17-18世紀	1	食籠	高さ27.0、径28.0			沖縄県浦添市・ 浦添市美術館	浦添市指定文化財(H2)	11
84	潤塗	箔絵	潤塗舟遊草花箔絵桜花形食籠	17-18世紀	1	食籠	高さ30.0、縦24.7 横24.7			沖縄県浦添市・ 浦添市美術館	浦添市指定文化財(H2)	11
85	朱塗	箔絵	朱漆樓閣人物箔絵桜花形食籠	17-18世紀	1	食籠	高さ19.8、径27.5			沖縄県浦添市・ 浦添市美術館	浦添市指定文化財(H2)	11
86	朱塗	沈金・螺钿	朱漆竹虎連珠沈金螺钿座屏	17-18世紀	1	座屏	高さ76.0、横92.2 奥行38.8			沖縄県浦添市・ 浦添市美術館	浦添市指定文化財(H21)	11
87	朱黒塗	沈金・螺钿	朱黒漆雲龍沈金螺钿卓	17-18世紀	1	卓	高さ43.0、縦86.5 横182.0			沖縄県浦添市・ 浦添市美術館	浦添市指定文化財(H21)	11
88	黒塗	螺钿	黒漆司馬溫公家訓螺钿掛板 (黒漆樓閣人物螺钿掛板)	17-18世紀	1	掛板	縦57.5、横71.5			沖縄県浦添市・ 浦添市美術館	浦添市指定文化財(H21)	11
89	朱黒塗	白密陀・密院絵・箔絵	白密陀給山水樓閣人物密陀絵箔絵 四方盆	17-18世紀	1	盆	高さ2.9、縦19.0 横19.0			沖縄県浦添市・ 浦添市美術館	浦添市指定文化財(H21)	11
90	朱塗	沈金	朱漆巴紋鳳凰七宝繫沈金丸櫃	17-18世紀	1	丸櫃	高さ23.3、径25.7			沖縄県那覇市・ 沖縄県立博物館・美術館		15
91	黒塗	沈金	黒漆桃枝七宝繫沈金足付盆	17-18世紀	1	盆	高さ16.7、径41.9			奈良県奈良市・ 大和文華館		16
92	黒塗	螺钿	黒漆山水樓閣螺钿食籠	18世紀初	1	食籠	高さ15.2、径40.6			米国・ メトロポリタン美術館	アービング・コレクション	7
93	黒塗	螺钿	黒漆樹下人物牡丹螺钿六角四段筆箱	18世紀前半	1	重箱	高さ17.8、径13.7			ドイツ・バーン・ ゲンホーフ・ツーク州国立 民族学博物館		7
94	黒塗	螺钿	黒漆雲龍文螺钿盆	18世紀後半	1	盆	径68.2			米国・ メトロポリタン美術館	アービング・コレクション	7
95	朱塗	沈金	又一メーウスリー(美御前御物) 朱漆牡丹七宝繫沈金御籠飯	18世紀	1	御道具	高さ38.5、径36.6			沖縄県那覇市・ 那覇市歴史博物館	国宝	3
96	朱塗	沈金	朱塗巴紋牡丹沈金足付盆(大・ 中・小)	18世紀	4	盆	大 高さ20.3 中 高さ10.8 小 高さ8.7 径19.4			沖縄県那覇市・ 那覇市歴史博物館	国宝	3
97	朱塗	沈金	朱漆巴紋牡丹沈金馬上盃	18世紀	1	盃	盃 高さ14.4、口径14.0			沖縄県那覇市・ 那覇市歴史博物館	国宝	3
98	朱塗	沈金	朱塗牡丹膚草七宝繫沈金料紙箱	18世紀	1	料紙箱	高さ11、縦40.5、横31.2			沖縄県那覇市・ 那覇市歴史博物館	国宝	3
99	黒塗	螺钿	黒漆葡萄螺钿箱	18世紀	1	箱	高さ13.1、15.4、横15.4			沖縄県那覇市・ 那覇市歴史博物館	国宝	3
100	黒塗	堆錦	黒漆宝尽堆錦軸盆	18世紀	1	軸盆	高さ4.8、縦43.2 横15.3			沖縄県那覇市・ 那覇市歴史博物館	国宝	3
101	朱塗	箔絵	朱漆樓閣人物箔絵足付盆及び丸重	18世紀	2	盆、重	盆 高さ16.7、径30.5 箱 高さ22.7、径9.7	識名親方与 ナガシマ 喜納里之子 親雲上	山川 佐々木左衛門 門	京都府京都市・ 東福寺	籍書に山川正龍寺江届用と指定あり、同寺から京都東福寺に塔頭即宗院へ渡る。元文5年(1740)	4
102	黒塗	螺钿	黒漆宝珠龍文螺钿盆	18世紀	1	盆	高さ4.9、径34.8			日本・個人蔵		5
103	黒塗	螺钿	黒漆山水唐子螺钿小單笥	18世紀	1	箪笥	高さ30.3、幅30.3 奥行22.5			英國・ 大英博物館日本部門		7
104	黒塗	螺钿	黒漆山水樓閣人物螺钿角皿	18世紀	1	皿	高さ1.3、縦11.0 横11.0			ドイツ・ BASF社社工芸博物館		7
105	黒塗	螺钿	黒漆樹下人物牡丹唐草螺钿六角四 段重箱	18世紀	1	重箱	高さ17.5、径14.2			米国・ メトロポリタン美術館	アービング・コレクション	7
106	黒塗	螺钿	黒漆樓閣人物牡丹螺钿四段重箱	18世紀	1	重箱	高さ24.6、径16.4			英國・ビクトリア&エリザベス 工芸美術博物館	ガーナコレクション	7
107	黒塗	螺钿	黒漆樓閣人物螺钿小皿	18世紀	1	皿	高さ1.1、径12.5			オーストリア・ ウィーン国立工芸美術館		7
108	黒塗	沈金	黒漆山水草花沈金八角食籠	18世紀	1	食籠	高さ36.0、径24.5			米国・ メトロポリタン美術館	アービング・コレクション	7
109	朱塗	螺钿・箔絵	朱漆蝶文螺钿箔絵棚	18世紀	1	棚	高さ51.0、奥行26.3 幅41.8			米国・ メトロポリタン美術館	アービング・コレクション	7
110	黒塗	箔絵・漆絵	黒漆山水人物箔絵漆絵高麗	18世紀	1	高麗	高さ16.2、縦37.5 横37.5			米国・ メトロポリタン美術館	アービング・コレクション	7
111	朱塗	箔絵	朱漆樹下人物箔絵食籠	18世紀	1	食籠	高さ30.4、径32.7			ドイツ・ ケルン市立東アジア 美術館	フィッシャー・コレクション	7
112	黒塗	密陀絵	黒漆椿梅紋密陀絵盆	18世紀	1	盆	縦34.0、横34.0			米国・ メトロポリタン美術館	アービング・コレクション	7
113		密陀絵・堆錦	白密陀花鳥堆錦盆	18世紀	1	盆	縦31.1、横31.1			米国・ メトロポリタン美術館	アービング・コレクション	7
114	黒塗	螺钿	黒塗螺鈿遊雁大文庫	18世紀	1	文庫				沖縄県那覇市・ 沖縄県立博物館・美術館	沖縄県指定文化財(S31)	9
115	黒塗	螺钿	黒塗螺鈿龍文内金箔蓋付椀	18世紀	1	椀				沖縄県那覇市・ 沖縄県立博物館・美術館	沖縄県指定文化財(S31)	9
116	黒塗	堆錦	黒漆芭蕉堆錦軸盆	18世紀	1	軸盆				沖縄県那覇市・ 沖縄県立博物館・美術館	沖縄県指定文化財(H2)	9

No	塗	加飾 技法	名称	推定 製作時代	員数	用途	法量 (単位 cm)	贈呈者	被贈呈者	所有者 (所蔵先)	指定、来歴等	出典
117	朱漆	沈金・ 箔絵	琉球楽器 銅羅 (トンロウ)	18世紀	1	楽器	台幅 97.6、台高 81.1	琉球使節 (中山王)	尾張徳川家	愛知県名古屋市・ 徳川美術館	琉球使節が将軍の前で演奏する際使用。寛政 2年 (1790) に進上。	13
118	潤塗		琉球楽器 小銅羅 (シャウトンロウ)	18世紀	1	楽器	台幅 34.0-34.7 台高 72.7	琉球使節 (中山王)	尾張徳川家	愛知県名古屋市・ 徳川美術館	琉球使節が将軍の前で演奏する際使用。寛政 2年 (1790) に進上。	13
119	潤塗		琉球楽器 哨吶 (ソナ)	18世紀	1	楽器	長さ 46.3	琉球使節 (中山王)	尾張徳川家	愛知県名古屋市・ 徳川美術館	琉球使節が将軍の前で演奏する際使用。寛政 2年 (1790) に進上。	13
120		箔絵	琉球楽器 管 (クハン)	18世紀	1	楽器	長さ 50.7	琉球使節 (中山王)	尾張徳川家	愛知県名古屋市・ 徳川美術館	琉球使節が将軍の前で演奏する際使用。寛政 2年 (1790) に進上。	13
121		箔絵	琉球楽器 橫笛 (ホンテウ) 長短	18世紀	2	楽器	長さ 70.5、 奥行 27.3	琉球使節 (中山王)	尾張徳川家	愛知県名古屋市・ 徳川美術館	琉球使節が将軍の前で演奏する際使用。寛政 2年 (1790) に進上。	13
122	潤塗	白蜜陀・ 漆絵	琉球楽器 夜雨金 (ヤウキン)	18世紀	1	楽器	高さ 6.4、幅 94.9 奥行 27.3	琉球使節 (中山王)	尾張徳川家	愛知県名古屋市・ 徳川美術館	琉球使節が将軍の前で演奏する際使用。寛政 2年 (1790) に進上。	13
123	潤塗	泥金・ 箔絵	琉球楽器 提箏 (ティツヤン)	18世紀	1	楽器	長さ 60.0	琉球使節 (中山王)	尾張徳川家	愛知県名古屋市・ 徳川美術館	琉球使節が将軍の前で演奏する際使用。寛政 2年 (1790) に進上。	13
124	潤塗	箔絵	琉球楽器 二線 (ルウスエン)	18世紀	1	楽器	長さ 91.5、胴径 8.0	琉球使節 (中山王)	尾張徳川家	愛知県名古屋市・ 徳川美術館	琉球使節が将軍の前で演奏する際使用。寛政 2年 (1790) に進上。	13
125	黒塗		琉球楽器 三線 (サンスエン) 短	18世紀	1	楽器	長さ 79.5 径 20.0 厚 6.5	琉球使節 (中山王)	尾張徳川家	愛知県名古屋市・ 徳川美術館	琉球使節が将軍の前で演奏する際使用。寛政 2年 (1790) に進上。	13
126	黒塗		琉球楽器 三線 (サンスエン) 長	18世紀	1	楽器	長さ 101.5 径 16.0 厚 7.0	琉球使節 (中山王)	尾張徳川家	愛知県名古屋市・ 徳川美術館	琉球使節が将軍の前で演奏する際使用。寛政 2年 (1790) に進上。	13
127	潤塗	密陀絵・ 漆絵	琉球楽器 長線 (チャンスエン)	18世紀	1	楽器	長さ 112.8、径 30.3 厚 7.9	琉球使節 (中山王)	尾張徳川家	愛知県名古屋市・ 徳川美術館	琉球使節が将軍の前で演奏する際使用。寛政 2年 (1790) に進上。	13
128	黒塗	螺鈿	黒漆雲龍螺鈿桙	18世紀	1	椀	高さ 12.0、径 12.0			米国ハワイ・ ホノルル美術館		14
129	朱塗	沈金	朱漆巴紋牡丹唐草七宝繫沈金食籠	18世紀	1	食籠	高さ 38.5、径 35.9			沖縄県那覇市・ 沖縄県立博物館・美術館		15
130	朱塗	沈金	朱漆巴紋牡丹唐草七宝繫沈金化粧 小箱	18世紀	1	箱	高さ 10.4、横 23.2 横 16.0			沖縄県那覇市・ 沖縄県立博物館・美術館		15
131	黒塗	螺鈿	黒漆雲双龍螺鈿丸盆	18世紀	1	盆	高さ 4.1、径 35.0			沖縄県那覇市・ 沖縄県立博物館・美術館		15
132	朱塗	螺鈿・ 堆錦	朱漆樹下群仙螺鈿堆錦六稜花形合 子	18世紀	1	合子	高さ 6.1、長径 26.5、 短径 24.0			沖縄県那覇市・ 沖縄県立博物館・美術館		15
133	黒塗	螺鈿	黒漆群馬遊雁螺鈿印籠	18世紀	1	印籠	縦 9.2、横 3.9、厚 2.2			沖縄県那覇市・ 沖縄県立博物館・美術館		15
134	朱塗	沈金	朱漆牡丹唐草七宝繫沈金足付盆	18世紀	1	盆	高さ 23.5、径 50.0			沖縄県那覇市・ 沖縄県立博物館・美術館		16
135	黒塗	螺鈿	黒漆捲闇騎馬人物螺鈿卓	18世紀	1	卓	高さ 24.0、縦 27.0 横 40.0			沖縄県浦添市・ 浦添市美術館		16
136	朱塗	箔絵	朱漆山水人物箔絵香盆	18世紀	1	香盆	高さ 3.2、縦 22.5 横 24.3			愛知県岡崎市・ 龍溪院	裏面朱書「大澤山龍溪院常什物禪海含寄附焉」 (海含億禪は宝永 6 年 (1709) 頃在住)	16
137	潤塗	螺鈿	潤塗雲鶴螺鈿香合	18世紀?	1	香合	高さ 2.4、径 8.3			沖縄県那覇市・ 沖縄県立博物館・美術館		15
138	黒塗	堆錦・ 螺鈿	黒漆鹿山水玉石嵌堆錦螺鈿硯屏	18-19世紀	1	硯屏	高さ 22.9、横 18.4	琉球使節 (中山王)	尾張 徳川家	愛知県名古屋市・ 徳川美術館	拿和 3 年～文化 4 年 (1803-07) の道具帳記 載から、寛政 2 年 (1790)、同 8 年 (1796)、 文化 8 年 (1806) 中で贈呈か?	2
139	黒塗	螺鈿	黒漆樓閣人物文螺鈿棚	18-19世紀	1	棚	高さ 80.0、幅 76.0 奥行き 34.0			沖縄県浦添市・ 浦添市美術館		5
140	黒塗	螺鈿	黒漆捲閣山水螺鈿机	18-19世紀	1	机	高さ 24.0、横 39.5、 横 100.7			沖縄県那覇市・ 沖縄県立博物館・美術館	沖縄県指定文化財	5
141	黒塗	螺鈿	黒漆山水螺鈿花活	18-19世紀	1	花活 (生)	高さ 19.2、径 16.5			沖縄県浦添市・ 浦添市美術館		5
142	黒塗	螺鈿	黒漆山水楼閣人物文螺鈿卓	18-19世紀	1	花瓶台、 香炉台	高さ 60.6、縦 44.2、 横 45.0			沖縄県那覇市・ 海洋博覧会記念公園 管理財団		5
143	朱黒塗	堆錦	朱漆山水人物堆錦風炉先屏風 (黒漆松竹文漢詩螺鈿風炉先屏風)	18-19世紀	1	屏風	縦 47.3、横 75.8 × 2 扇、厚 1.8			沖縄県那覇市・ 海洋博覧会記念公園 管理財団		5
144	黒塗	螺鈿	黒漆雲龍文螺鈿盆	18-19世紀	1	盆	高さ 3.0、径 34.3			ドイツ・ ベルリン国立博物館・ 東洋美術館		7
145	朱塗	箔絵	朱漆山水箔絵椅子	18-19世紀	1	椅子	高さ 104.7、幅 62.0 奥行き 54.0			ドイツ・ BASF 社漆工芸博物館	クル・ベル・コレクション	7
146	朱塗	堆錦	朱漆山水樓閣堆錦東道盆	18-19世紀	1	東道盆	高さ 36.5、縦 56.0 横 35.0	琉球国王	中国皇帝	中国・ 北京故宮博物院	献上品	8
147	朱塗	堆錦	朱漆山水樓閣堆錦東道盆	18-19世紀	1	東道盆	高さ 36.5、縦 56.0 横 35.0	琉球国王	中国皇帝	中国・ 北京故宮博物院	献上品	8
148	朱塗	堆錦	朱漆菊花唐草堆錦文庫	18-19世紀	1	文庫	高さ 14.2、縦 23.2 横 30.5	琉球国王	中国皇帝	中国・ 北京故宮博物院	献上品	8
149	黒塗	螺鈿	黒漆宝珠双龍螺鈿盆	18-19世紀	1	盆	高さ 4.0 径 34.2	琉球国王	中国皇帝	中国・ 北京故宮博物院	献上品	8
150	黒塗	螺鈿	黒漆宝珠双龍螺鈿盆	18-19世紀	1	盆	高さ 4.5 径 34.8	琉球国王	中国皇帝	中国・ 北京故宮博物院	献上品	8
151	黒塗	螺鈿	黒漆宝珠双龍螺鈿盆	18-19世紀	1	盆	高さ 2.9 径 34.7	琉球国王	中国皇帝	中国・ 北京故宮博物院	献上品	8
152	黒塗	螺鈿	黒漆宝珠双龍螺鈿盆	18-19世紀	1	盆	高さ 3.5 径 35.0	琉球国王	中国皇帝	中国・ 北京故宮博物院	献上品	8
153	黒塗	螺鈿	黒漆宝珠双龍螺鈿盆	18-19世紀	1	盆	高さ 2.9 径 34.7	琉球国王	中国皇帝	中国・ 北京故宮博物院	献上品	8
154	黒塗	螺鈿	黒漆宝珠双龍螺鈿盆	18-19世紀	1	盆	高さ 2.9 径 34.8	琉球国王	中国皇帝	中国・ 北京故宮博物院	献上品	8
155	黒塗	螺鈿	黒漆宝珠双龍螺鈿盆	18-19世紀	1	盆	高さ 2.9 径 34.7	琉球国王	中国皇帝	中国・ 北京故宮博物院	献上品	8
156	黒塗	螺鈿	黒漆宝珠双龍螺鈿盆	18-19世紀	1	盆	高さ 3.5 径 34.6	琉球国王	中国皇帝	中国・ 北京故宮博物院	献上品	8
157	黒塗	螺鈿	黒漆宝珠双龍螺鈿盆	18-19世紀	1	盆	高さ 4.0 径 34.6	琉球国王	中国皇帝	中国・ 北京故宮博物院	献上品	8

No	塗	加飾 技法	名称	推定 製作時代	員数	用途	法量 (単位 cm)	贈呈者	被贈呈者	所有者 (所蔵先)	指定、来歴等	出典
158	黒塗	螺鈿	黒漆宝珠双龍螺鈿盆	18-19世紀	1	盆	高さ 3.5 径 34.6	琉球国王	中国皇帝	中国・ 北京故宮博物院	献上品	8
159	黒塗	螺鈿	黒漆宝珠双龍螺鈿盆	18-19世紀	1	盆	高さ 3.5 径 34.6	琉球国王	中国皇帝	中国・ 北京故宮博物院	献上品	8
160	黒塗	螺鈿	黒漆宝珠双龍螺鈿椀 (蓋付)	18-19世紀	1	椀	高さ 11.0 径 11.5	琉球国王	中国皇帝	中国・ 北京故宮博物院	献上品	8
161	黒塗	螺鈿	黒漆宝珠双龍螺鈿椀 (蓋付)	18-19世紀	1	椀	高さ 11.0 径 11.5	琉球国王	中国皇帝	中国・ 北京故宮博物院	献上品	8
162	黒塗	螺鈿	黒漆宝珠双龍螺鈿椀 (蓋付)	18-19世紀	1	椀	高さ 11.0 径 11.5	琉球国王	中国皇帝	中国・ 北京故宮博物院	献上品	8
163	黒塗	螺鈿	黒漆宝珠双龍螺鈿椀 (蓋付)	18-19世紀	1	椀	高さ 11.0 径 11.5	琉球国王	中国皇帝	中国・ 北京故宮博物院	献上品	8
164	黒塗	螺鈿	黒漆宝珠双龍螺鈿椀 (蓋付)	18-19世紀	1	椀	高さ 11.0 径 11.5	琉球国王	中国皇帝	中国・ 北京故宮博物院	献上品	8
165	黒塗	螺鈿	黒漆宝珠双龍螺鈿椀	18-19世紀	1	椀	高さ 7.2 径 11.7	琉球国王	中国皇帝	中国・ 北京故宮博物院	献上品	8
166	黒塗	螺鈿	黒漆山水人物螺鈿四方杯	18-19世紀	1	杯	高さ 3.5 縦 5.5 横 5.5	琉球国王	中国皇帝	中国・ 北京故宮博物院	献上品	8
167	黒塗	螺鈿	黒漆山水人物螺鈿四方杯	18-19世紀	1	杯	高さ 4.0 縦 5.5 横 5.5	琉球国王	中国皇帝	中国・ 北京故宮博物院	献上品	8
168		描金・ 螺鈿	金地山水人物螺鈿四方杯	18-19世紀	1	杯	高さ 3.7 縦 5.3 横 5.3	琉球国王	中国皇帝	中国・ 北京故宮博物院	献上品	8
169	黒塗	螺鈿	黒漆雁鶴螺鈿桃形杯	18-19世紀	1	杯	高さ 3.6 縦 6.5 横 6.0	琉球国王	中国皇帝	中国・ 北京故宮博物院	献上品	8
170	黒塗	螺鈿	黒漆山水人物螺鈿桃形杯	18-19世紀	1	杯	高さ 3.2 縦 6.0 横 6.0	琉球国王	中国皇帝	中国・ 北京故宮博物院	献上品	8
171	黒塗	螺鈿	黒漆山水人物螺鈿桃形杯	18-19世紀	1	杯	高さ 3.6 縦 6.0 横 6.0	琉球国王	中国皇帝	中国・ 北京故宮博物院	献上品	8
172	黒塗	螺鈿	黒漆花蝶螺鈿角皿	18-19世紀	1	皿	高さ 1.0 縦 10.3 横 10.3	琉球国王	中国皇帝	中国・ 北京故宮博物院	献上品	8
173	黒塗	螺鈿	黒漆山水人物螺鈿角皿	18-19世紀	1	皿	高さ 1.2 縦 10.8 横 10.8	琉球国王	中国皇帝	中国・ 北京故宮博物院	献上品	8
174	黒塗	螺鈿	黒漆山水人物螺鈿角皿	18-19世紀	1	皿	高さ 1.2 縦 10.8 横 10.8	琉球国王	中国皇帝	中国・ 北京故宮博物院	献上品	8
175	黒塗	螺鈿	黒漆船遊図螺鈿角皿	18-19世紀	1	皿	高さ 1.2 縦 10.8 横 10.8	琉球国王	中国皇帝	中国・ 北京故宮博物院	献上品	8
176	黒塗	螺鈿	黒漆山水人物螺鈿角皿	18-19世紀	1	皿	高さ 1.3 縦 10.9 横 10.9	琉球国王	中国皇帝	中国・ 北京故宮博物院	献上品	8
177	黒塗	螺鈿	黒漆釣人螺鈿角皿	18-19世紀	1	皿	高さ 1.3 縦 10.5 横 10.5	琉球国王	中国皇帝	中国・ 北京故宮博物院	献上品	8
178	黒塗	螺鈿	黒漆山水人物螺鈿椀	18-19世紀	1	椀	高さ 4.2 径 10.7	琉球国王	中国皇帝	中国・ 北京故宮博物院	献上品	8
179	黒塗	螺鈿	黒漆花枝文螺鈿輪花盆	18-19世紀	1	盆	高さ 4.5 径 22.5	琉球国王	中国皇帝	中国・ 北京故宮博物院	献上品	8
180	黒塗	螺鈿	黒漆花鳥螺鈿箱	18-19世紀	1	箱	高さ 16.8 縦 43.0 横 24.8	琉球国王	中国皇帝	中国・ 北京故宮博物院	献上品	8
181		描金・ 螺鈿	金地雲龍螺鈿墨箱	18-19世紀	1	墨箱	高さ 3.5 縦 18.9 横 26.8	琉球国王	中国皇帝	中国・ 北京故宮博物院	献上品	8
182	黒塗	螺鈿	黒漆牡丹唐草螺鈿卓	18-19世紀	1	卓	高さ 10.3 縦 23.7 横 35.5			沖縄県浦添市・ 浦添市美術館	沖縄県指定文化財 (H2)	9
183	黒塗		三線 真壁型	18-19世紀	1	楽器	長さ 77.2			沖縄県・個人	嘉手納町指定文化財 (S58)	10
184	朱塗	沈金	朱漆牡丹巴紋七寶繫沈金足付盆	18-19世紀	1	盆	高さ 16.3 径 40.5			沖縄県浦添市・ 浦添市美術館	浦添市指定文化財 (H2)	11
185	黒塗	螺鈿	黒漆樓閣人物螺鈿八角食籠	18-19世紀	1	食籠	高さ 20.6 径 27.0			沖縄県浦添市・ 浦添市美術館	浦添市指定文化財 (H2)	11
186	黒塗	螺鈿	黒漆藻魚千鳥螺鈿八角食籠	18-19世紀	1	食籠	高さ 30.7 径 29.4			沖縄県浦添市・ 浦添市美術館	浦添市指定文化財 (H2)	11
187	黒塗	螺鈿	黒漆桐鳳凰螺鈿東道盆	18-19世紀	1	東道盆	高さ 26.2 縦 34.5 横 34.5			沖縄県浦添市・ 浦添市美術館	浦添市指定文化財 (H2)	11
188	黒塗	螺鈿	黒漆山水人物螺鈿衝立	18-19世紀	1	衝立	高さ 125.0 横 114.0 奥行 39.5			沖縄県浦添市・ 浦添市美術館	浦添市指定文化財 (H2)	11
189	白檀塗	箔絵	白檀透巻樓閣山水宿給湯庫	18-19世紀	1	湯庫	高さ 25.3 径 24.2			沖縄県浦添市・ 浦添市美術館	浦添市指定文化財 (H2)	11
190	朱塗	箔絵	朱漆山水人物箔絵東道盆	18-19世紀	1	東道盆	高さ 30.0 径 49.5			沖縄県浦添市・ 浦添市美術館	浦添市指定文化財 (H2)	11
191	黒塗	箔絵・ 密陀絵	黒漆花鳥箔絵密陀絵盆	18-19世紀	1	盆	高さ 3.1 径 31.7			沖縄県浦添市・ 浦添市美術館	浦添市指定文化財 (H2)	11
192	黒塗	螺鈿	黒漆山水人物螺鈿八角食籠	18-19世紀	1	食籠	高さ 38.6 径 35.0			沖縄県浦添市・ 浦添市美術館	浦添市指定文化財 (H21)	11
193	黒塗	螺鈿	黒漆山水樓閣螺鈿中央卓	18-19世紀	1	卓	高さ 51.1 縦 39.8 横 39.5			沖縄県浦添市・ 浦添市美術館	浦添市指定文化財 (H21)	11
194	朱塗	沈金	朱漆牡丹唐草七宝繫沈金天目 台 (蓋付)	18-19世紀	1	天目台	高さ 6.8、羽根径 15.0			沖縄県那覇市・ 沖縄県立博物館・美術館		15
195	潤塗	螺鈿・ 箔絵	潤塗葡萄栗殻螺鈿酒糸料紙箱・硯箱	18-19世紀	2	料紙箱・硯箱	料紙箱高さ 11.1、 縦 45.4、横 36.3 硯箱高さ 6.0、縦 36.4、 横 21.5			沖縄県那覇市・ 沖縄県立博物館・美術館		15
196	黒塗	螺鈿	黒漆祥瑞螺鈿楊枝容	18-19世紀	1	楊枝容	高さ 8.0、径 6.3			沖縄県那覇市・ 沖縄県立博物館・美術館		15
197	黒塗	螺鈿	黒漆仙人遊棋花鳥螺鈿茶箱 茶巾 筒・筆付	18-19世紀	3	茶箱	高さ 10.4 縦 10.0 横 14.5			沖縄県那覇市・ 沖縄県立博物館・美術館		15
198	黒塗	螺鈿	黒漆山水樓閣人物七宝繫螺鈿八角 食籠	18-19世紀	1	食籠	高さ 21.3、径 21.4			沖縄県那覇市・ 沖縄県立博物館・美術館		15
199	朱塗	漆絵	朱漆宿押螺漆絵納代花弁形東道盆	18-19世紀	1	東道盆	高さ 20.5、径 37.0			沖縄県那覇市・ 沖縄県立博物館・美術館		15

No	塗	加飾 技法	名称	推定 製作時代	員数	用途	法量 (単位 cm)	贈呈者	被贈呈者	所有者 (所蔵先)	指定、来歴等	出典
200	朱塗	箔絵	朱漆山水楼閣人物箔繪菊花形食籠	18-19世紀	1	食籠	高さ 23.3、径 27.8			沖縄県那覇市、 沖縄県立博物館・美術館		15
201	朱塗	堆錦	朱漆山水楼閣人物堆錦椀	18-19世紀	1	椀	高さ 9.6、径 17.8			沖縄県那覇市、 沖縄県立博物館・美術館		15
202	朱塗	堆錦	朱漆山水楼閣人物堆錦丸型東道盆	18-19世紀	1	東道盆	高さ 24.7、径 34.2			沖縄県那覇市、 沖縄県立博物館・美術館		15
203	朱塗	堆錦	朱漆山水楼閣人物堆錦八角東道盆	18-19世紀	1	東道盆	高さ 24.5、径 47.0			沖縄県那覇市、 沖縄県立博物館・美術館		15
204	朱塗	堆錦	朱漆菊唐草堆錦台	18-19世紀	1	台	高さ 15.0、縦 30.2 横 47.3			沖縄県那覇市、 沖縄県立博物館・美術館		15
205	朱塗	密陀絵・ 箔絵	朱漆龍花鳥密陀絵箔繪野井当	18-19世紀	1	弁当	高さ 32.9、縦 14.6 横 31.0			沖縄県那覇市、 沖縄県立博物館・美術館		15
206	朱塗	沈金	朱漆七宝鑿沈金膳	18-19世紀	1	膳	高さ 10.6、縦 33.7 横 33.7			沖縄県浦添市、 浦添市美術館		16
207	朱塗	沈金	朱漆牡丹沈金湯庫	18-19世紀	1	湯庫	高さ 26.8、径 22.8			沖縄県那覇市、 沖縄県立博物館・美術館		16
208	黒塗	螺鈿	黒漆山水人物螺鈿食籠	18-19世紀	1	食籠	高さ 38.5、径 35.0			沖縄県浦添市、 浦添市美術館		16
209	黒塗	螺鈿	黒漆雲龍螺鈿盆	18-19世紀	1	盆	高さ 4.0、径 34.3			沖縄県浦添市、 浦添市美術館		16
210	黒塗	漆絵・ 螺鈿	黒漆折枝漆絵螺鈿膳	18-19世紀	5	膳	高さ 4.8、縦 31.0 横 31.0			沖縄県浦添市、 浦添市美術館		16
211	黒塗	螺鈿	黒漆樓閣人物螺鈿卓	18-19世紀	1	卓	高さ 30.0、縦 40.0 横 80.0			沖縄県浦添市、 浦添市美術館		16
212	黒塗	螺鈿	黒漆山水人物螺鈿衝立	18-19世紀	1	衝立	高さ 125.0、幅 144.0 奥行 39.5			沖縄県浦添市、 浦添市美術館		16
213	黒塗	螺鈿	黒漆山水楼閣人物螺鈿箱	18-19世紀	1	箱	高さ 20.0、縦 22.0 横 36.0			沖縄県浦添市、 浦添市美術館		16
214	朱塗	螺鈿	朱漆樓閣人物螺鈿視箱	18-19世紀	1	箱	高さ 8.0、縦 27.0 横 27.0			沖縄県浦添市、 浦添市美術館		16
215	黒塗	螺鈿	黒漆山水楼閣人物螺鈿伽羅箱	18-19世紀	1	箱	高さ 15.5、縦 16.7 横 16.5			沖縄県浦添市、 浦添市美術館		16
216	黒塗	螺鈿	黒漆山水螺鈿印籠	18-19世紀	1	印籠	縦 9.1、横 4.1 厚 2.2			沖縄県浦添市、 浦添市美術館		16
217	朱塗	箔絵	朱漆山水楼閣人物箔繪菱花形食籠	18-19世紀	1	食籠	高さ 19.7、径 26.3			沖縄県浦添市、 浦添市美術館		16
218	朱塗	箔絵	朱漆山水楼閣人物箔繪丸形東道盆	18-19世紀	1	東道盆	高さ 29.0、径 48.5			沖縄県那覇市、 沖縄県立博物館・美術館		16
219	朱塗	箔絵	朱漆山水楼閣人物箔繪丸形東道盆	18-19世紀	1	東道盆	高さ 18.5、縦 33.9 横 33.9			沖縄県浦添市、 浦添市美術館		16
220	朱塗	箔絵	朱漆山水楼閣箔繪卓	18-19世紀	1	卓	高さ 17.0、縦 35.5 横 64.5			沖縄県浦添市、 浦添市美術館		16
221	朱塗	箔絵	朱漆樓閣人物箔繪六稜花形小皿	18-19世紀	5	皿	高さ 2.0、径 13.0			沖縄県那覇市、 沖縄県立博物館・美術館		16
222		箔絵・ 密陀絵	拭漆山水人物箔繪密陀絵箱	18-19世紀	1	箱	高さ 15.3、縦 11.9 横 23.0			沖縄県浦添市、 浦添市美術館		16
223	黒塗	箔絵・ 密陀絵	黒漆花鳥箔繪密陀絵盆	18-19世紀	1	盆	高さ 3.0、径 31.0			沖縄県浦添市、 浦添市美術館		16
224	黒塗	箔絵・ 密陀絵	黒漆鳳凰箔繪密陀絵如意	18-19世紀	1	如意	長さ 41.3、幅 10.5			沖縄県浦添市、 浦添市美術館		16
225	朱塗	密陀絵	朱漆梅椿密陀絵箱	18-19世紀	1	箱	高さ 7.5、縦 25.1 横 22.8			沖縄県浦添市、 浦添市美術館		16
226	井柄・ 黒塗	密陀絵	井柄黒漆鶯密陀絵膳	18-19世紀	1	膳	高さ 3.6、縦 36.3 横 36.3			沖縄県浦添市、 浦添市美術館		16
227			竹虎詩文連珠座屏	18-19世紀	1	座屏	高さ 76.2、幅 92.6 奥行 39.5			沖縄県浦添市、 浦添市美術館		16
228	黒塗	螺鈿	黒漆吉祥文螺鈿吊番炉	18-19世紀	1	香炉	高さ 77.0、径 24.5			愛知県名古屋市・ 柳明社		16
229	朱塗	箔絵・ 密陀絵	朱漆樹下人物箔繪密陀絵視箱	18-19世紀	1	硯箱	高さ 2.9、縦 24.5 横 22.9			奈良県奈良市・ 楽玩堂		16
230	黒塗	密陀絵	黒漆山水人物密陀絵大手箱	18-19世紀	1	手箱	高さ 14.1、縦 38.0 横 60.8			奈良県奈良市・ 楽玩堂		16
231	黒塗	螺鈿	黒漆雲龍文螺鈿丸盆	18-19世紀	1	盆	径 34.0			米国サンゼルス・ マリビック郡美術館	龍 5爪	17
232	黒塗	螺鈿	黒漆花鳥山水螺鈿三段提重箱	19世紀初	1	重箱	高さ 29.7、縦 26.7 横 37.1			オランダ・ 国立民族学博物館	シボウコレクション	7
233	黒塗	螺鈿	黒漆七宝鑿宝尽螺鈿笠	19世紀初	1	笠	高さ 7.2、径 40.5			ドイツ・ BASF 社漆工芸博物館	外付・内付コレクション	7
234	黒塗	螺鈿	黒漆山水螺鈿角切盆	19世紀初	1	盆	高さ 3.5、縦 21.5 横 21.5			オランダ・ 国立民族学博物館	シボウコレクション	7
235	溜塗		溜塗茄子型合子	19世紀初	3	合子	高さ 11.5、径 8.0			オランダ・ 国立民族学博物館	大シボウコレクション	7
236	朱塗	箔絵	朱漆草花箔繪丸盆	19世紀	10	盆	高さ 2.2-2.4、 径 37.5-37.9			愛知県名古屋市・ 徳川美術館	尾張徳川家の江戸時代の道具帳に「朱塗琉球 蒔繪盆」及び「朱琉球蒔繪丸盆」と記載。 文政8年(1825)以前に入手。	2
237	溜塗	箔絵	溜塗鷺梅箔繪三足丸盆	19世紀	5	膳	高さ 6.3、 径 44.3-44.8			愛知県名古屋市・ 徳川美術館	蓋裏に「鷺梅模様琉球足付御丸盆 四之帳 五人前」と墨書きされ、蓋裏に天保二(1831) 卯(卯)九月木田屋より御賃上」と記載	2
238	朱塗	堆錦	朱漆蝶菊堆錦大平碗(大)	19世紀	1	椀	高さ 15.7、径 28.7			沖縄県石垣市・ 宮良殿内		2
239	朱塗	堆錦	朱漆蝶菊堆錦大平碗(小)	19世紀	1	椀	高さ 14.0、径 25.7			沖縄県石垣市・ 宮良殿内		2
240	黒塗	螺鈿	黒漆雲龍文螺鈿東道盆	19世紀	1	東道盆	高さ 32.8、縦 35.2 横 56.1			沖縄県那覇市・ 那覇市歴史博物館	国宝	3
241	黒塗	螺鈿・ 漆絵	黒漆貝尽螺鈿漆絵料紙箱	19世紀	1	料紙箱	高さ 9.3、縦 34.8、 横 31.8			沖縄県那覇市・ 那覇市歴史博物館	国宝	3

No	塗	加飾 技法	名称	推定 製作時代	員数	用途	法量 (単位 cm)	贈呈者	被贈呈者	所有者 (所蔵先)	指定・来歴等	出典
242	黒塗	螺鈿・ 漆絵	黒漆貝尽螺鈿漆繪硯箱	19世紀	1	硯箱	高さ 16.5、横 24.2、 横 19.5			沖縄県那覇市 那覇市歴史博物館	国宝	3
243	黒塗	螺鈿	黒漆楼閣山水人物文螺鈿料紙箱及 び硯箱	19世紀	2	料紙箱・ 硯箱	料紙箱高さ 14.5 縦 41.5 横 22.9			東京・ 東京国立博物館		5
244	黒塗	螺鈿	黒漆螺鈿酒盃	19世紀	1	盃	高さ 4.5、縦 5.5 横 5.5			オーストリア・ ウィーン国立工芸美 術館	明治 6 年 (1873) カーニバル後収藏か。	7
245	朱塗	沈金	朱漆桜文扇型沈金櫛	19世紀	1	櫛	高さ 52.5、奥 35.0 横幅 68.0			オーストリア・ ウィーン国立工芸美 術館	明治 6 年 (1873) カーニバル後収藏か。	7
246	黒塗	螺鈿・ 箔絵	黒漆葡萄茱萸螺鈿箔絵三段小箱	19世紀	1	箱	高さ 7.6、縦 5.5 横 5.8			オーストリア・ ウィーン国立民族学 博物館	小糸ボットコレクション	7
247	黒塗	螺鈿・ 箔絵	黒漆葡萄茱萸螺鈿箔絵箱	19世紀	1	箱	高さ 8.2、縦 11.5 横 21.4			オーストリア・ ウィーン国立民族学 博物館	小糸ボットコレクション	7
248	朱塗	箔絵・ 螺鈿	朱漆山水落繪螺鈿卓	19世紀	1	卓	高さ 26.8、縦 29.0 横 49.5			米國・ メトロポリタン美術館	アービング・コレクション	7
249	黒塗		三線 翁長開鐘	19世紀	1	楽器	長さ 76.7			沖縄県・個人	沖縄県指定文化財 (G30) 尚灘王 (在位 1804- 1834) 愛用と伝わる	9
250	黒塗		三線 盛鳩開鐘 附胴	19世紀	1	楽器	長さ 76.5			沖縄県那覇市・ 沖縄県立博物館・美術館	沖縄県指定文化財 (H6) 胴に「咸豐拾年」(1860) の銘記有	9
251	黒塗		三線 真壁型 (大型)	19世紀	1	楽器	長さ 76.7			沖縄県・個人	うるま市指定文化財 (H6)	9
252	黒塗		三線 平仲知念型 (大型)	19世紀	1	楽器	長さ 78.5			沖縄県・個人	うるま市指定文化財 (H6) 尚奏王 (在位 1848-1879) から下賜された伝承 あり	9
253	黒塗		三線 鴨口与那型 (中型)	19世紀	1	楽器	長さ 78.6			沖縄県・個人	うるま市指定文化財 (H6)	9
254	朱塗	沈金	朱漆巴紋牡丹唐草七宝繫沈金櫛	19世紀	1	梳	高さ 10.5、径 11.5			沖縄県那覇市・ 沖縄県立博物館・美術館		15
255	黒塗	螺鈿	黒漆山水人物行楽図螺鈿櫛	19世紀	1	櫛	高さ 78.8、縦 28.3 横 80.4			沖縄県那覇市・ 沖縄県立博物館・美術館		15
256	潤塗	箔絵	潤塗松竹梅鶴亀彌絵捌箱	19世紀	1	束道盆	高さ 26.3、縦 26.6 横 37.1			沖縄県那覇市・ 沖縄県立博物館・美術館		15
257	朱塗	沈金	朱漆玉取龍沈金長方盆	19世紀	1	盆	高さ 3.0、縦 24.5 横 37.0			沖縄県浦添市・ 浦添市美術館		16
258	黒塗	螺鈿	黒漆山水樓閣人物箔繪盆	19世紀	1	盆	高さ 154.0、幅 123.7 奥行 45.5			沖縄県浦添市・ 浦添市美術館		16
259	朱塗	螺鈿・ 堆錦	朱漆尾長鶴松竹梅堆錦螺鈿平箱	19世紀	1	箱	高さ 6.0、縦 16.9 横 31.0			沖縄県那覇市・ 沖縄県立博物館・美術館		16
260	朱塗	箔絵	朱漆山水樓閣人物箔繪盆	19世紀	1	盆	高さ 3.5、径 45.2			沖縄県浦添市・ 浦添市美術館		16
261	朱塗	箔絵	朱漆山水樓閣箔繪提重	19世紀	1	提重	高さ 24.0、縦 16.5 横 25.5			沖縄県浦添市・ 浦添市美術館		16
262	朱塗	箔絵	朱漆山水樓閣箔繪湯庫	19世紀	1	湯庫	高さ 24.5、径 20.5			沖縄県浦添市・ 浦添市美術館		16
263	潤塗		潤塗提重	19世紀	1	提重	高さ 34.0、径 29.0			沖縄県浦添市・ 浦添市美術館		16
264	春慶塗		春慶塗雲龍彫木彩色東道盆	19世紀	1	東道盆	高さ 36.2、径 32.6			沖縄県那覇市・ 沖縄県立博物館・美術館	田名宗経 (1798-1865) 作	16
265	朱塗	箔絵・ 密陀絵	朱漆山水樓閣箔繪瓶子	19世紀	1	瓶子	高さ 16.4、縦 13.6 横 24.3			奈良県奈良市・ 奈玩堂		16
266	朱塗	堆錦	朱漆菊花堆錦合子	19-20世紀	1	合子	高さ 3.4、径 7.9			カナダ・ 国立民族学博物館	明治 40 年 (1907) 以前に神戸で購入	7
267	朱塗	堆錦	朱漆菊花堆錦小箱	19-20世紀	1	箱	高さ 5.4、縦 10.2 横 10.2			カナダ・ 国立民族学博物館	明治 40 年 (1907) 以前に神戸で購入	7
268	朱塗	堆錦	朱漆龍文堆錦合子	19-20世紀	1	合子	高さ 2.9、径 10.3			カナダ・ 国立民族学博物館	明治 40 年 (1907) 以前に神戸で購入	7
269	緑塗	沈金	綠漆六角ターコー	20世紀初	1	ターコー	高さ 30、径 19.5			ドイツ・ ベルリン 民族学博物館	ベーリング・エクスプローラーのコレクション	7
270	黒塗	堆錦	黒漆箆模様堆錦文箱	20世紀初	1	箱	高さ 17.5、縦 37.0 横 47.5			オーストリア・ ライプツィヒ国立工芸美術館	グラーフ・カスパーのコレクション	7
271		堆錦	唐草文堆錦印籠	20世紀前	1	印籠	縦 6.4、横 8.0			ドイツ・ バウムガルテン 国立民族学博物館	大正 10 年 (1921) ブナー館長収集	7
272	黒塗	堆錦 螺鈿	黒漆那覇港圖文堆錦螺鈿衝立	20世紀	1	衝立	高さ 175.5、横 147.5	沖縄県	昭和天皇	鹿児島県鹿児島市・ 黎明館	昭和 3 年 (1928) 献上	6
273	黒塗	沈金	黒漆鉄線唐草沈金食籠	20世紀	1	食籠	高さ 45.0、径 42.0			沖縄県那覇市・ 沖縄県立博物館・美術館		16
274	朱塗	箔絵	朱漆箔 (絵) 巴紋玉貢置盆		1	盆	高さ 7.8、径 34.2			沖縄県伊是名村 (伊是名村ふれあい 民俗館)	伊是名村指定文化財 (S52) 銘苅家所蔵	1
275	朱塗	箔絵	朱漆箔 (絵) 巴紋足付盆		1	盆	高さ 10.3、径 28.5			沖縄県伊是名村 (伊是名村ふれあい 民俗館)	伊是名村指定文化財 (S52) 銘苅家所蔵	1
276	朱塗	箔絵	朱漆箔 (絵) 巴紋食籠		1	食籠	高さ 35.0、径 30.4			沖縄県伊是名村 (伊是名村ふれあい 民俗館)	伊是名村指定文化財 (S52) 銘苅家所蔵	1
277	朱塗	箔絵	朱漆箔 (絵) 巴紋足付盆		1	盆	高さ 10.8、径 28.3			沖縄県伊是名村 (伊是名村ふれあい 民俗館)	伊是名村指定文化財 (S52) 銘苅家所蔵	1
278	朱塗	箔絵	朱漆箔 (絵) 巴紋足付盆		1	盆	高さ 9.6、径 20.5			沖縄県伊是名村 (伊是名村ふれあい 民俗館)	伊是名村指定文化財 (S52) 銘苅家所蔵	1
279	朱塗	箔絵	朱漆箔 (絵) 巴紋酒器		1	酒器	高さ 8.1、径 15.0			沖縄県伊是名村 (伊是名村ふれあい 民俗館)	伊是名村指定文化財 (S52) 銘苅家所蔵	1

No	塗	加飾技法	名称	推定製作時代	員数	用途	法量(単位cm)	贈呈者	被贈呈者	所有者(所蔵先)	指定・来歴等	出典
280	朱塗	箔絵	朱漆箔(繪)巴紋天目台		2	天目台	高さ 7.1、径 7.5 高さ 6.8、7.5			沖縄県伊是名村 (伊是名村ふれあい民俗館)	伊是名村指定文化財(S52)銘莉家所蔵	1
281	黒塗	箔絵	黒漆箔(繪)巴紋茶箱		1	茶箱	高さ 12.3、縦 108 横 20.1			沖縄県伊是名村 (伊是名村ふれあい民俗館)	伊是名村指定文化財(S52)銘莉家所蔵	1
282	黒塗	箔絵	黒漆箔(繪)巴紋香箱		1	香箱	高さ 6.0、縦 10.8 横 47.2			沖縄県伊是名村 (伊是名村ふれあい民俗館)	伊是名村指定文化財(S52)銘莉家所蔵	1
283	黒塗	箔絵	黒漆箔(繪)巴紋香箱台		1	箱台	高さ 4.3、縦 27.3 横 51.6			沖縄県伊是名村 (伊是名村ふれあい民俗館)	伊是名村指定文化財(S52)銘莉家所蔵	1
284	朱塗	箔絵	朱漆箔(繪)巴紋丸盆		2	盆	高さ 3.3、3.4 径 22.5、22.0			沖縄県伊是名村 (伊是名村ふれあい民俗館)	伊是名村指定文化財(S52)銘莉家所蔵	1
285	朱塗	箔絵	朱漆箔(繪)巴紋丸盆		2	盆	高さ 3.8、径 25.0			沖縄県伊是名村 (伊是名村ふれあい民俗館)	伊是名村指定文化財(S52)銘莉家所蔵	1
286	溜塗		溜塗丸盆		24	盆	高さ 4.7、径 29.5			沖縄県伊是名村 (伊是名村ふれあい民俗館)	伊是名村指定文化財(S52)銘莉家所蔵	1
287	黒塗		黒漆鉢		16	鉢	高さ 6.9、径 28.3			沖縄県伊是名村 (伊是名村ふれあい民俗館)	伊是名村指定文化財(S52)銘莉家所蔵	1
288	朱塗	沈金	朱塗巴紋牡丹七宝繫沈金丸盆		2	盆	高さ 3.6、径 25.3			沖縄県伊是名村 (伊是名村ふれあい民俗館)	伊是名村指定文化財(S52)銘莉家所蔵	1
289	溜塗		溜塗丸盆		1	盆	高さ 4.2、径 32.1			沖縄県伊是名村 (伊是名村ふれあい民俗館)	伊是名村指定文化財(S52)銘莉家所蔵	1
290	黒塗	箔絵	黒漆箔(繪)巴紋丸盆		1	盆	高さ 4.2、径 30.5			沖縄県伊是名村 (伊是名村ふれあい民俗館)	伊是名村指定文化財(S52)銘莉家所蔵	1
291	黒塗	箔絵	黒漆箔(繪)巴紋八段盆		1	盆	高さ 4.2、径 31.2			沖縄県伊是名村 (伊是名村ふれあい民俗館)	伊是名村指定文化財(S52)銘莉家所蔵	1
292	真塗	箔絵	真漆箔(繪)巴紋食籠(椀・茶托入れ)		1	食籠	高さ 31.0、径 30.2			沖縄県伊是名村 (伊是名村ふれあい民俗館)	伊是名村指定文化財(S52)銘莉家所蔵	1
293	黒塗	箔絵	黒漆朱巴紋椀及び黒漆箔巴紋椀・蓋付		3	椀	高さ 6.0、径 12.0			沖縄県伊是名村 (伊是名村ふれあい民俗館)	伊是名村指定文化財(S52)銘莉家所蔵	1
294	黒塗	箔絵	黒漆箔(繪)巴紋茶托		2	茶托	高さ 5.9、径 9.0			沖縄県伊是名村 (伊是名村ふれあい民俗館)	伊是名村指定文化財(S52)銘莉家所蔵	1
295	黒塗	箔絵	黒漆箔(繪)巴紋足付盆		1	盆	高さ 11.0、径 35.3			沖縄県伊是名村 (伊是名村ふれあい民俗館)	伊是名村指定文化財(S52)銘莉家所蔵	1
296	溜塗	箔絵	溜塗山水樓閣人物箔絵九櫃(内懸子入)		1	櫃	高さ 23.4、径 23.5			沖縄県伊是名村 (伊是名村ふれあい民俗館)	伊是名村指定文化財(S52)伊平屋の阿母加那志拝領品	1
297	黒塗	箔絵	黒漆箔(繪)巴紋足付盆		1	盆	高さ 10.0、径 16.6			沖縄県伊是名村 (伊是名村ふれあい民俗館)	伊是名村指定文化財(S52)伊平屋の阿母加那志拝領品	1
298	黒塗		黒漆朱巴紋小櫃		1	櫃	高さ 31.9、幅 38.0 奥行 27.5			沖縄県伊是名村 (伊是名村ふれあい民俗館)	伊是名村指定文化財(S52)伊平屋の阿母加那志拝領品	1
299	黒塗	箔絵	黒漆箔(繪)巴紋御玉貯置盆		1	盆	高さ 9.3、径 31.7			沖縄県伊是名村 (伊是名村ふれあい民俗館)	伊是名村指定文化財(S52)伊平屋の阿母加那志拝領品	1
300	黒塗	箔絵	黒漆山水人物箔絵丸櫃		1	櫃	高さ 18.1、径 20.5			沖縄県・個人	伊是名村指定文化財(S52)北の二かや田(伊禮家)の拝領品	1
301	黒塗	沈金	黒漆島花文点斜格子沈金丸櫃(内懸子入)		1	櫃	高さ 17.1、径 18.0			沖縄県・個人	伊是名村指定文化財(H4)南の二かや田(五城家)の拝領品	1
302	朱塗	密陀絵・箔絵	朱漆山水樓閣人物密陀絵箔絵台子				高さ 6.3、縦 42.0 横 85.4			東京・宮内庁	箱の貼札に「朱漆台子 甲板唐給琉球製」とある。	2
303	朱塗		朱漆定紋入冠帽入		1	帽子入	高さ 26.2			東京・日本美術館		2
304	朱塗	箔絵	朱漆山水樓閣人物箔絵台子		1	東道盆	高さ 18.5、径 31.8			沖縄県・個人 (石垣市立八重山博物館寄託)		2
305	黒塗		黒漆朱定紋入食籠		1	食籠	高さ 47.0			東京・日本美術館		2
306	朱塗		朱漆酒注		1	酒注	高さ 10.5			東京・日本美術館		2
307	朱塗		朱漆酒瓶		1	酒瓶	高さ 22.6			東京・日本美術館		2
308	朱塗	箔絵	朱漆櫻閣人物七宝繫(箔絵)丸櫃		1	櫃	高さ 23.5、径 26.3			鹿児島県・奄美博物館	奄美地方では「ウツボ」などと呼ばれる。奄美大島・浦上川の造品	2
309	朱塗	箔絵	朱漆家紋食籠		1	食籠	高さ 39.5、縦 38.4			沖縄県石垣市・ 石垣市立八重山博物館	「夏林氏」の家紋が箔絵で描かれる。	2
310	黒塗	箔絵	黒漆蝶梅竹箔絵櫃		1	櫃	高さ 58.0、縦 55.5 横 88.0			鹿児島県奄美市 奄美市歴史民俗資料館	旧笠利町歴史民俗資料館	2
311	朱塗		朱漆中央卓		1	中央卓	高さ 58.8、横 44.5			沖縄県・個人	宮良殿内	2
312	黒塗		黒漆水紋帖箱		1	帖箱	高さ 25.4、径 25.5			沖縄県・個人	宮良殿内	2
313	春慶塗		春慶塗箱枕		1	枕	高さ 16.0、縦 11.2 横 20.0			沖縄県石垣市・ 石垣市立八重山博物館		2
314	朱塗	箔絵	朱漆吉祥文様箔絵酒容		1	酒容	高さ 7.8、縦 7.9 横 14.2			沖縄県石垣市・ 石垣市立八重山博物館		2
315	朱塗	箔絵	朱漆吉祥文様箔絵小箱		1	箱	高さ 5.5、縦 8.0 横 14.0			沖縄県石垣市・ 石垣市立八重山博物館		2
316	朱塗		朱漆丸膳		1		径 28.3			東京・ 日本美術館		2

No	塗	加飾 技法	名称	推定 製作時代	員数	用途	法量 (単位 cm)	贈呈者	被贈呈者	所有者 (所蔵先)	指定、来歴等	出典
317	黒塗	螺钿	黒漆山水楼閣人物螺钿箱		1	箱	高さ 5.1、縦 16.8 横 7.6			ドイツ・ BASF 社漆工芸博物館	旧カト・コレクション収集、 カト・ヘーベル 購入	7
318	黒塗	螺钿・ 沈金	黒漆花鳥螺钿沈金八角食籠		1	食籠	高さ 39.0、径 37.5			米国・ ボストン美術館		7
319	黒塗	螺钿	黒漆桃型螺钿合子		1	合子	高さ 2.0、縦 5.0、 横 6.0			ドイツ・ BASF 社漆工芸博物館	カト・ヘーベルコレクション	7
320	黒塗	螺钿	黒漆梅花型合子		1	合子	高さ 2.1、径 5.0			ドイツ・ BASF 社漆工芸博物館		7
321	黒塗	螺钿	黒漆螺钿合子		1	合子	高さ 3.5、縦 4.2 横 4.8			ドイツ・ BASF 社漆工芸博物館		7
322	黒塗	螺钿	黒漆松竹梅鳥文螺钿印籠		1	印籠	高さ 3.1、縦 11.0 横 5.1			ドイツ・ BASF 社漆工芸博物館	カト・ヘーベルコレクション	7
323	黒塗	螺钿	黒漆馬文螺钿印籠		1	印籠	高さ 2.5、縦 7.0 横 6.0			オーストリア・ ウィーン国立工芸美 術館		7
324	黒塗	螺钿	黒漆山水人物螺钿印籠		1	印籠	高さ 2.8、縦 9.6 横 5.4			ドイツ・ BASF 社漆工芸博物館		7
325	黒塗	螺钿	黒漆山水螺钿印籠		1	印籠	高さ 2.2、縦 6.4 横 5.3			ドイツ・個人	ハイク・タス	7
326	黒塗	螺钿・ 蒔絵	黒漆山水螺钿蒔絵八角印籠		1	印籠	高さ 2.8、縦 7.6 横 7.1			ドイツ・個人	ハイク・タス	7
327	黒塗	螺钿	黒漆豪龍文螺钿印籠		1	印籠	高さ 2.5、縦 10.1 横 6.3			ドイツ・個人	ハイク・タス	7
328	黒塗	螺钿	黒漆竹虎文螺钿印籠		1	印籠	高さ 2.5、縦 7.1 横 5.2			ドイツ・個人	ハイク・タス	7
329	朱塗	沈金	朱漆花虫沈金足付盆		1	盆	高さ 8.3、径 35.2			ドイツ・ ベルリン国立博物館・ 美術館		7
330	黒塗	密陀絵 箔絵	黒漆芙蓉密陀絵箔絵箱			箱	高さ 5.6、縦 43.0 横 25.5			ドイツ・ ケルン市立東アジア 美術館		7
331	朱塗	密陀絵・ 箔絵	朱漆山水樓閣密陀絵箔絵長盆		1	盆	縦 45.5、横 28.6			米国・ ボストン美術館		7
332	朱塗	堆錦	朱漆牡丹唐草堆錦鞍		1	鞍	前輪の高さ 27.5			ドイツ・ ケルン市立東アジア 美術館		7
333	黒塗	堆錦	黒漆唐草文堆錦印籠		1	印籠	高さ 1.9、縦 8.2 横 4.9			ドイツ・個人	ハイク・タス	7
334	黒塗	堆錦	黒漆山水堆錦印籠		1	印籠	高さ 2.9、縦 8.3 横 4.8			ドイツ・個人	ハイク・タス	7
335		堆彩	樹下人物堆彩印籠		1	印籠	高さ 3.0、縦 9.4 横 4.7			ドイツ・個人	ハイク・タス	7
336	朱塗	堆朱	山水樓閣人物堆朱印籠		1	印籠	高さ 2.2、縦 8.1 横 5.9			ドイツ・個人	ハイク・タス	7
337	黒塗	堆黒	山水樓閣堆黒印籠		1	印籠	高さ 2.4、縦 8.1 横 5.6			ドイツ・個人	ハイク・タス	7
338	黒塗		三線 志多伯開鐘		1	楽器	長さ 77.3			沖縄県・個人	沖縄県指定文化財 (S30)	9
339	黒塗		三線 潟川開鐘		1	楽器	長さ 74.2			沖縄県・個人	沖縄県指定文化財 (S30)	9
340	黒塗	堆錦	黒塗堆錦山水絵大文庫		1	文庫				沖縄県那覇市・沖縄 県立博物館・美術館	沖縄県指定文化財 (S31)	9
341	黒塗		三線 江戸與那		1	楽器	長さ 80.3			沖縄県那覇市・沖縄 県立博物館・美術館	沖縄県指定文化財 (S31)	9
342	黒塗		三線 南風原型		1	楽器	長さ 77.0			沖縄県・個人	沖縄県指定文化財 (S33)	9
343	黒塗		三線 南風原型		1	楽器	長さ 78.0			沖縄県・個人	沖縄県指定文化財 (S33)	9
344			三線 久菜の骨型		1	楽器	長さ 76.0			沖縄県・個人	沖縄県指定文化財 (S33)	9
345			三線 久場春殿型		1	楽器	長さ 78.0			沖縄県・個人	沖縄県指定文化財 (S33)	9
346			三線 久場春殿型		1	楽器	長さ 78.5			沖縄県・個人	沖縄県指定文化財 (S33)	9
347			三線 知念大工型		1	楽器	長さ 77.9			沖縄県・個人	沖縄県指定文化財 (S33)	9
348			三線 与那型		1	楽器	長さ 78.2			沖縄県・個人	沖縄県指定文化財 (S33)	9
349	黒塗・ 緑塗	沈金	黒塗菊花鳥虫沈金外檻及び緑塗鳳 凰雲沈金丸内檻		2	檻				沖縄県・個人 (久米島自然文化セ ンター寄託)	沖縄県指定文化財 (S53)	9
350	黒塗	螺钿	黒漆山水樓閣人物螺钿机		1	机				沖縄県那覇市・ 沖縄県立博物館・美術館	沖縄県指定文化財 (H2)	9
351		漆繪・ 箔絵	白密山水樓閣人物漆繪箔角盆		1	盆				沖縄県那覇市・ 沖縄県立博物館・美術館	沖縄県指定文化財 (H2)	9
352	朱塗	箔絵	朱漆山水樓閣人物箔絵丸形東道盆		1	東道盆				沖縄県那覇市・ 沖縄県立博物館・美術館	沖縄県指定文化財 (H2)	9
353	朱塗	沈金	朱漆巴紋牡丹沈金大御供飯		1	御供飯				沖縄県那覇市・ 沖縄県立博物館・美術館	沖縄県指定文化財 (H2)	9
354	黒塗		三線 富盛開鐘 附胴		1	楽器	長さ 77.3			沖縄県那覇市・ 沖縄県立芸術大学附 属図書・芸術資料館	沖縄県指定文化財 (H6)	9
355	黒塗		三線 真壁型 銘安室		1	楽器	長さ 77.1			沖縄県・個人	沖縄県指定文化財 (H6)	9
356	黒塗		三線 真壁型 銘西平		1	楽器	長さ 77.7			沖縄県・個人	沖縄県指定文化財 (H6)	9
357	黒塗		三線 真壁型		1	楽器	長さ 76.6			沖縄県・個人	沖縄県指定文化財 (H6)	9
358	黒塗		三線 大真壁型 附胴		1	楽器	長さ 78.3			沖縄県・個人	沖縄県指定文化財 (H6)	9
359	黒塗		三線 平仲知型 銘時受		1	楽器	長さ 77.2			沖縄県・個人	沖縄県指定文化財 (H6)	9
360	黒塗		三線 与那城型 銘玉城與那		1	楽器	長さ 79.1			沖縄県・個人	沖縄県指定文化財 (H6)	9
361	黒塗		三線 糸蔵長與那城型		1	楽器	長さ 78.7			沖縄県・個人	沖縄県指定文化財 (H6)	9

No	塗	加飾 技法	名称	推定 製作時代	員数	用途	法量 (単位 cm)	贈呈者	被贈呈者	所有者 (所蔵先)	指定、来歴等	出典
362	黒塗	沈金	黒漆菊花鳥虫七宝繫沈金食籠		1	食籠				沖縄県那覇市・ 海洋博覧会記念公園 管理財團 (首里城公 園管理センター)	沖縄県指定文化財 (H18)	9
363	黒塗	沈金	黒漆牡丹七宝繫沈金食籠		1	食籠				沖縄県那覇市・ 海洋博覧会記念公園 管理財團 (首里城公 園管理センター)	沖縄県指定文化財 (H18)	9
364	朱塗	密陀絵	朱漆花鳥密陀絵盆		1	盆	高さ 2.3、径 26.8			沖縄県浦添市・ 浦添市美術館	浦添市指定文化財 (H21)	11
365	黒塗	螺鈿	黒漆雲龍螺鈿東道盆		1	東道盆	高さ 35.4、縦 35.1 横 55.9			岡山県岡山市・ 林原美術館	池田家伝来	12
366	白密附・ 箔絵	白密陀山水人物箔絵刀掛				刀掛	高さ 41.0、縦 19.7 横 65.5			岡山県岡山市・ 林原美術館	池田家伝来	12
367		螺鈿	鳳凰螺鈿天目台			天目台	高さ 8.7、径 15.5			岡山県・林原美術館	池田家伝来	12
368	黒塗	密陀絵・ 箔絵	黒漆山水楼閣人物密陀絵箔絵提重		1	提重	高さ 29.0、縦 13.5 横 13.5			米国ハワイ・ ホノルル美術館		14
369	朱塗	密陀絵・ 箔絵	朱漆花鳥密陀絵箔絵食籠		1	食籠	高さ 22.5、縦 21.2 横 21.2			米国ハワイ・ ホノルル美術館		14
370	朱塗	箔絵	朱漆山水雲鳳樹下人物箔絵盆		1	盆	高さ 4.7、縦 40.0 横 52.7			米国ハワイ・ ホノルル美術館		14
371	朱塗	密陀絵	朱漆山水樓閣密陀絵中央卓		1	中央卓	高さ 35.5、径 35.5			米国ハワイ・ ホノルル美術館		14
372	朱塗	密陀絵	朱漆山水樓閣人物密陀絵卓		1	卓	高さ 31.5、縦 35.0 横 51.0			米国ハワイ・ ホノルル美術館		14
373	朱塗	密陀絵・ 箔絵	朱漆樹下山水樓閣人物密陀絵箔絵合子		1	合子	高さ 8.0、縦 12.5 横 12.5			米国ロサンゼルス・ カバヤ 久都美術館		14
374	朱塗	密陀絵・ 箔絵	朱漆雲龍牡丹密陀絵箔絵輪花盆		1	盆	径 30.0			米国ロサンゼルス・ カバヤ 久都美術館		14
375	朱塗	密陀絵・ 箔絵	朱漆山水樓閣人物箔絵楳花形食籠		1	食籠	高さ 21.5、径 24.0			米国ロサンゼルス・ カバヤ 久都美術館		14
376	黒塗	螺鈿	黒漆螺鈿足付盆		1	盆	高さ 8.5、径 36.0			米国ロサンゼルス・ カバヤ 久都美術館		14
377	緑塗	沈金	綠塗牡丹唐草石墨沈金膳		1	膳	縦 36.0、横 36.5			米国ロサンゼルス・ カバヤ 久都美術館		14
378	黒塗	沈金	黒漆山水人物沈金高膳		1	膳				米国ロサンゼルス・ カバヤ 久都美術館		14
379	朱塗	箔絵・ 密陀絵	朱漆花鳥箔絵密陀絵盆		1	盆	径 33.2			米国ロサンゼルス・ カバヤ 久都美術館		17
380		白密陀	白密陀果実丸盆		1	盆	径 33.2			米国ロサンゼルス・ カバヤ 久都美術館		17
381	朱塗	沈金	朱漆牡丹沈金足付盆		1	盆	高さ 8.0、径 16.8			米国ロサンゼルス・ カバヤ 久都美術館		17
382	朱塗	密陀絵	朱漆山水樹下人物密陀絵長盆		1	盆	高さ 2.5、縦 38.0 横 24.0			米国ロサンゼルス・ カバヤ 久都美術館		17
383	黒塗	螺鈿	黒漆樓閣人物螺鈿小箪子		1	箪子	高さ 38.2、縦 33.5 横 45.2			米国ロサンゼルス・ カバヤ 久都美術館		17
384	朱塗	堆錦	朱漆人物堆錦小箪子		1	箪子	高さ 30.5、縦 26.5 横 30.2			米国ロサンゼルス・ カバヤ 久都美術館		17
385	朱塗	箔絵・ 沈金	朱漆牡丹七宝繫箔絵沈金櫃		1	櫃	高さ 59.0、幅 90.3 奥行 57.0			米国ロサンゼルス・ カバヤ 久都美術館		17
386	黒塗	箔絵	黒漆牡丹箔絵櫃		1	櫃	高さ 57.0、幅 87.3 奥行 57.0			米国ロサンゼルス・ カバヤ 久都美術館		17
387	朱塗	沈金	朱漆山水樓閣人物沈金丸盆		1	盆	径 23.0			米国ロサンゼルス・ カバヤ 久都美術館		17
388	朱塗	箔絵	朱漆牡丹孔雀箔絵食籠		1	食籠	高さ 28.0、径 29.0			米国ロサンゼルス・ カバヤ 久都美術館		17
389	黒塗	螺鈿	黒漆瑞雲双龍螺鈿丸盤		1	盤	径 85.0			米国ロサンゼルス・ カバヤ 久都美術館		17
390	朱塗	箔絵	朱漆葡萄栗鼠蠶箔絵足付盆		1	盆	高さ 19.0、径 42.5			米国サンフランシスコ・ カバヤ 久都美術館		17
391	黒塗	螺鈿	黒漆花鳥文螺鈿印籠		1	印籠	縦 8.5、横 5.5			米国サンフランシスコ・ カバヤ 久都美術館		17
392	黒塗	堆錦	黒漆双鶴堆錦三線箱		1	三線箱	高さ 24.0、縦 86.0 横 14.5			米国ハワイ・ カバヤ文化センター		17
393	黒塗	堆錦	黒漆巴紋龍堆錦陣笠		1	笠	径 43.5			米国ハワイ・ 個人		17
394	朱塗	沈金	朱漆巴紋牡丹沈金御供飯		1	御供飯	高さ 42.0、径 54.5			米国ハワイ・ ホノルル美術館		17
395	黒塗	螺鈿	黒漆雲龍螺鈿椀		1	椀	高さ 12.0、径 12.0			米国ハワイ・ ホノルル美術館		17
396	朱塗	密陀絵・ 沈金	朱漆花鳥七宝繫密陀絵沈金硯箱・ 台		2	硯箱・台	箱高さ 6.5、縦 24.0 横 22.7 台高さ 19.0、縦 34.8 横 56.5			米国ハワイ・ ホノルル美術館		17
397	朱塗	密陀絵・ 箔絵	朱漆山水人物櫻賀密陀絵箔絵飾棚		1	棚	高さ 46.5、幅 33.3 奥行 29.5			米国ハワイ・ ホノルル美術館		17
398	黒塗	螺鈿・ 密陀絵・ 箔絵	黒漆山水樓閣螺鈿密陀絵箔絵硯屏		1	硯屏	高さ 53.0、幅 53.0 奥行 18.0			米国ハワイ・ ホノルル美術館		17
399	黒塗	螺鈿・ 箔絵	黒漆山水螺鈿箔絵箱		1	箱	高さ 19.7、縦 29.5 横 16.5			米国ハワイ・ ホノルル美術館		17
400	黒塗	漆絵・ 箔絵・ 螺鈿	黒漆花鳥漆絵箔絵螺鈿台子		1	台子	高さ 44.5、縦 31.5 横 26.0			米国ハワイ・ ホノルル美術館		17
401	朱塗	螺鈿・ 箔絵	朱漆宝尽螺鈿箔絵中央卓		1	中央卓	高さ 47.5、縦 33.6			米国ハワイ・ ホノルル美術館		17

No	塗	加飾 技法	名称	推定 製作時代	員数	用途	法量（単位cm）	贈呈者	被贈呈者	所有者 (所蔵先)	指定、来歴等	出典
402	黒塗	密陀絵	黒漆花鳥麒麟密陀絵高台		1	高台	高さ 32.5、縦 41.5			米国ハワイ・ ホノルル美術館		17
403	朱塗	螺鈿	朱漆松螺鈿軸盆		1	軸盆	高さ 4.0、縦 35.0 横 11.0			米国ハワイ・ ホノルル美術館		17
404	黒塗		黒漆輪花形盆		1	盆	高さ 4.5、縦 28.4 横 18.0			米国ハワイ・ ホノルル美術館		17
405	黒塗	螺鈿	黒漆人物螺鈿足付杯台		2	杯台	高さ 10.0、縦横 13.8			米国ハワイ・ ホノルル美術館		17
406	朱塗	箔絵	朱漆牡丹唐草箔絵足付盆		1	足付盆	高さ 17.0、径 43.0			米国ハワイ・ ホノルル美術館		17
407	朱塗		朱漆箱		1	箱	高さ 23.0、縦 49.5 横 29.0			米国ハワイ・ ホノルル美術館		17
408	朱塗	箔絵	朱漆牡丹箔絵束道盆		1	束道盆	高さ 19.4、径 41.0			米国ハワイ・ ホノルル美術館		17
409	朱塗	箔絵	朱漆牡丹箔絵湯庫		1	湯庫	高さ 34.0、径 28.5			米国ハワイ・ ホノルル美術館		17
410	朱塗	箔絵	朱漆山水人物楼閣箔絵角形束道盆		1	束道盆	高さ 20.8、縦・横 34.0			米国ハワイ・ ホノルル美術館		17
411	朱塗	密陀絵	朱漆山水人物楼閣密陀絵卓		1	卓	高さ 31.5、縦 51.0 横 35.0			米国ハワイ・ ホノルル美術館		17
412	朱塗	密陀絵	朱漆人物密陀絵円卓		1	卓	高さ 36.0、径 36.5			米国ハワイ・ ホノルル美術館		17
413	黒塗	密陀絵	黒漆山水人物密陀絵野弁当箱		1	弁当箱	高さ 46.0、縦 35.5 横 24.5			米国ハワイ・ ホノルル美術館		17
414	朱塗	密陀絵	朱漆山水樓閣密陀絵円卓		1	卓	高さ 35.5、径 35.5			米国ハワイ・ ホノルル美術館		17
415	朱塗	密陀絵	朱漆山水人物樓閣密陀絵中央卓		1	中央卓	高さ 48.5、縦横 28.0			米国ハワイ・ ホノルル美術館		17
416	朱塗	密陀絵・ 箔絵	朱漆山水人物樓閣密陀絵箔絵皿		1	皿	高さ 2.5、径 28.0			米国ハワイ・ ホノルル美術館		17
417	朱塗	堆錦	朱漆花鳥堆錦盆		1	盆	高さ 3.5、縦横 24.0			米国ハワイ・ ホノルル美術館		17
418	朱塗	箔絵	朱漆花鳥箔絵皿		5	皿	高さ 2.8、径 32.0			米国ハワイ・ ホノルル美術館		17
419	朱塗	箔絵	朱漆山水人物樓閣密陀絵折敷		1	折敷	高さ 2.5、縦横 28.5			米国ハワイ・ ホノルル美術館		17
420	黒塗	堆錦	藍版黒漆山水樹下人物堆錦盆		1	盆	高さ 4.0、縦 33.2 横 27.2			米国ハワイ・ ホノルル美術館		17

#### 出典番号

- 『伊是名村 文化財写真集』伊是名村教育委員会 1989年（平成1）
- 『伊是名村銘苅家の旧蔵品および史料の解説書—公事清明祭をめぐる公文書と挙領の品々—』伊是名村教育委員会 2007年（平成19）
- 那覇市制70周年記念企画『歴史をひらく・琉球文化秘宝展』（図録）「歴史をひらく・琉球文化秘宝展」実行委員会 1991年（平成3）
- 『尚家継承美術工芸—琉球王家の美—』図録 2002（平成14）
- 『檀王法林寺袋中上人—琉球と京都の架け橋』（2011年）
- 開館記念特別展「美のシリーズ」第3弾『うるまちゅら島琉球』（2006年）※他の資料名称と統一するために名称を改訂した。
- 『鹿児島県歴史資料センター黎明館常設展示図録』 1996年（平成8）
- 『世界に誇る・琉球王朝文化遺宝展—ヨーロッパ・アメリカ秘蔵—』 ドイツ・日本研究所 1992年（平成4）
- 『中国・北京故宮博物院秘蔵「甦る琉球王国の輝き」』（沖縄県立博物館・美術館開館1周年記念博物館特別展図録）平成20年（2008）
- 1 『平成22年度版 文化行政要覧』 沖縄県教育委員会 2011年（平成23）
- 2 『沖縄の文化財 有形文化財編』 沖縄県教育委員会 1995年（平成7）
- 『嘉手納町の文化財』 嘉手納町教育委員会 1999年（平成11）
- 『館蔵 琉球漆芸』 浦添市美術館 1995年（平成7）
- 『尚家関係資料総合調査報告書II 美術工芸編』 那覇市（市民文化部歴史資料室） 2003年（平成15）
- 『琉球王朝の美』 彦根城博物館 1993年（平成5）
- 太平洋戦争・沖縄戦50周年記念事業特別展『甦る沖縄・戦災文化財と戦後生活資料展』沖縄県立博物館 1995年（平成7）
- 『沖縄の工芸美術』長野県信濃美術館 1995年（平成7）
- 『特別展 沖縄の雅—琉球王朝の美—（図録）』名古屋城美術展開催実行委員会 1991年（平成3）
- 『在米国沖縄関連文化財調査報告書』 沖縄県教育委員会 1996（平成8）

※重複するものについては、所蔵先の資料目録等を優先した。